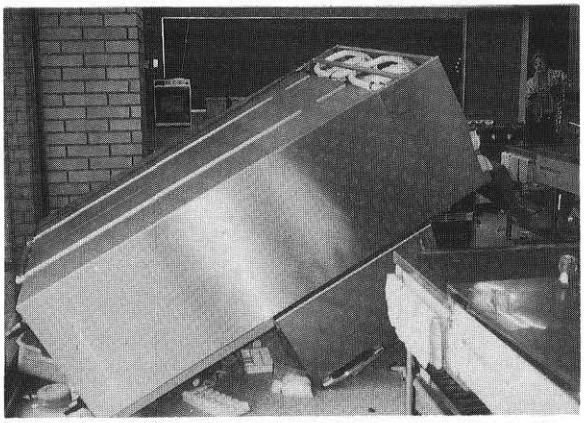
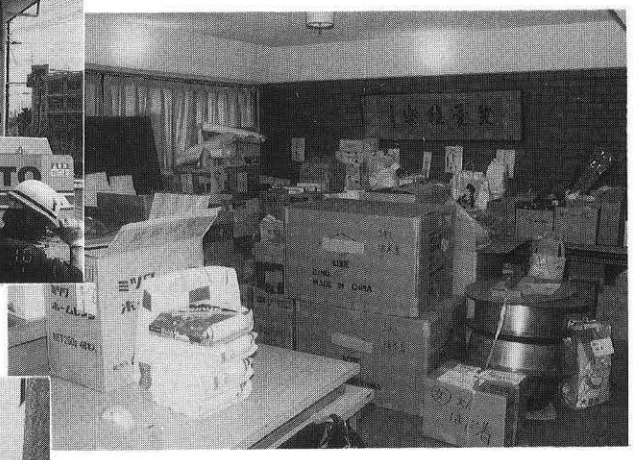
# 阪神淡路大震災
# 記録誌

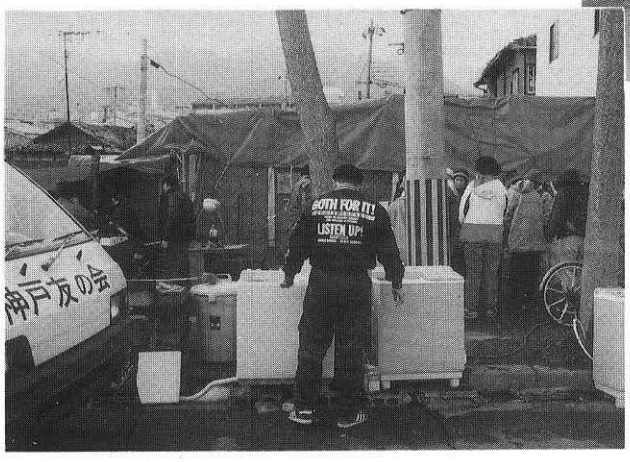
神戸友の会

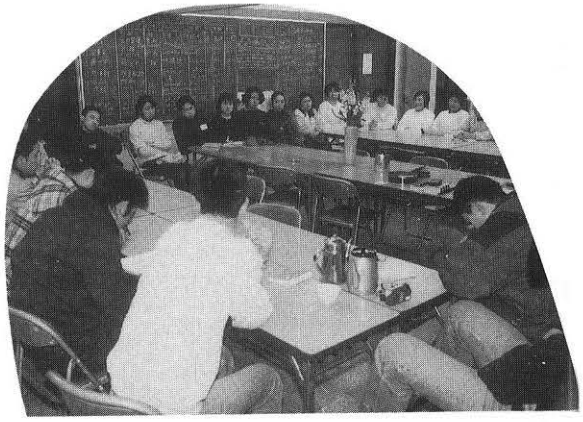
1995年１月17日　午前５時46分

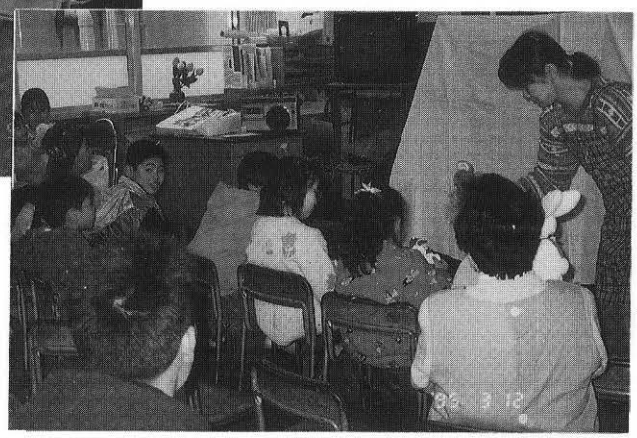


KATO




BOTH FOR IT!
LISTEN UP!
神戸友の会





寄贈

震災文庫 6-74

昨年１月17日、わたし達は大震災を体験しました。
人々の平穏な生活は無残なまでに打ち砕かれ、多くの尊い生命を奪われ、この大自然の中で人はあまりにも小さく、目に見えるものは一瞬にして壊れることを知りました。

震災直後、なすすべもなく、また何をすれば……と動き出せないでいた私たちですが、すぐに全国海外からの暖かい励ましとお助けを頂き少しずつ、一歩ずつ歩み出すことが出来ました。
特に創立者を同じくする　全国友の会　婦人之友社　自由学園の三団体の協力にはずいぶん助けられ、友の会会員であることの喜びを感じました。

神戸も復興へと大きく歩み出してはいますが、まだ色々と問題も残っており、これからも私たちは手を携え共に歩んでゆかねばなりません。

あの時から、今なお物心両面で支えて下さっている皆様に、心からの感謝を込めてこれまでの歩みをまとめてみました。

1996年3月

神戸友の会
総リーダー　橘　貞子

神戸大学附属図書館
8年3.29
No. 9513357

00095133579

# もくじ

全国友の会中央部の皆様へ …… 7

震災から２ケ月 …… 9

全国からの暖い支援をうけて …… 10

楽しく遊んだ日々 …… 14

三団体の救援活動報告 …… 15

炊き出しのこと …… 23

会員の被災状況 …… 25

震災後 会員の感じたこと 思ったこと …… 26

幼児生活団震災後の歩み …… 93

'95年度 生活学園震災後のこと …… 95

各方面の歩み …… 98

震災より一年が過ぎて …… 109

闇をかえて 光となす …… 112

震災展に向って …… 114

# 全国友の会中央部の皆様へ

神戸友の会　田　中　礼　子

1月17日未明の兵庫県南部地震による神戸の状況をどんなにか案じて下さいますこと、感謝いたします。そのご心配におこたえするだけの情報がなかなかつかめず、あせりを覚える長い三日間でした、が今朝20日は少し気持ちが落ちついて来ました。

17日、地震直後総リーダーの岸さんとは互いの安否を確かめ合い、方面リーダーの安否と友の家のことを二人で確かめることにしました、が、すぐに電話が通じなくなりました。その時には私の家も無事でしたので、これほどの惨事になっているとは想像もつきませんでした。時間は覚えておりませんが、間もなく電気もつき、ガスも使えるようになりましたので、なおさらのことでした。(翌日から、ガス・水道止まる)

他の中央委員にも連絡がつかず、テレビの情報からだんだんと厳しい現実が見えて来る中から、愛読者会中止の結論を出し、友社に何度目かに通じた時はほっとしました。その時、岸さんの家は大丈夫だが、おばさんの家や最寄の人3人ほどが泊まりに来ると聞き、あとは連絡がとれません。昨日の報告では、元気な人は庭でテント生活、家の中は風邪をひいた人と考えて生活している様子です。(訪ねた人の報告)

ラジオで会員の情報を田中まで知らせてほしいと、鞘本さんが頼んで流してくれましたが、全く反応がありませんでした。皆、自分のことで必死だったと思います。

友社の村本さんや勝木さんからも励ましのお電話や愛読者会へのご配慮をいただき、西村さんからも18日早朝公衆電話から、皆で何でもして応援するからと言っていただきました。皆様のご厚意はわかっても何をどうしてもらったらよいのか見当がつかず途方にくれたというのが正直なところです。

18日、とにかく連絡のつく人に頼んで歩いて状況をつかんでもらうことにし、甲南、御影、灘の人に頼みました。西神はあまり被害を受けてなく、地下鉄で板宿まで出られるので、一番の被害の中心地の長田の様子を見て来てほしいと頼みました。西神の方面リーダーからは危険だからそんなことは出来ないと、他の人のところにおことわりの電話があったというので、無理もないとあきらめていましたら、直接私が頼んだ人は若い人と2人で長田の近くまで行って3人の会員の家を訪ねてくれ、電話が通じないからと、夕方家まで報告に来てくれました。本当にその必死の気持ちにうたれました。

鞘本さんも便があって、板宿まで行って見て来てくれました。倒れた家が道をふさぎ、ビルが頭上に倒れかかって、まだくすぶり続ける中で作業している自衛隊の方の

働きに接し、私たち個人が勝手な動きをするよりも、数日は公の働きにまかせることが協力だと、話してくれました。

私も皆様のご厚意に何とか応えることが出来ないかと、拠点を決めて水や食料を送ってもらい、そこへ取りに行ったり、運んだりしてはと考えてもみましたが、それが無理だとわかりました。お米をもらっても水がないのでどうも出来ない。一人分なら炊けるからと聞くと、今の神戸の現状では、出来る人が自分のまわりで手をさしのべて当座をしのぐしかないと思うようになりました。この分だと生活が落ちつき始めてからが長期戦で大変だと思います。その時の手助けは皆様に頼る他ないでしょう。

全焼したひと２人、全壊・半壊の人も多数いる様ですが、各々に避難していて無事のようで安心していましたが、昨夕おそく死者一人の悲しい知らせが入りました。

岡田素子さん（入会 '84.5月）　東灘区御影中町４－４－19です。前日たずねた人が、家がつぶれていて、ご主人はさっき運び出されたと近所の人に聞いたけれど、岡田さんはとじこめられたままではないか心配、入口の家が倒れていて中に入れなかったので、もう一度訪ねてみると言っていた人です。お子さんがなく、ご主人と二人暮らしの50代の方です。新聞には岡田とだけ出ていますが住所が同じなので間違いないと思います。あと、長田方面の　守屋京子　兵庫区中道通６－３－７

明沢秀子　長田区御蔵通４－79

の二人が一番ひどいところになるので心配ですが連絡がとれていません。ただただ無事を祈るばかりです。他の会員は各々に頑張っているようです。洲本の通信会員のことも気にかかりますが、私たちには今何もできません。避難所に行った人の報告では名簿でさがすのも大変だし、長いこと待って中に入れてもらっても大変な人で捜し出すのも難しいし、たとえ見つけても友の会の人だけにというのは出来ない、もっと全体的に考えていかないと、ということです。

被害の少ない私の地域（神戸市の西端）でも古い家は屋根や壁がおち道はデコボコ、スーパーの前やパン屋の前は長い列が出来たり、水をもらうのに半日かかったりしていますが、人々はわりと落ちついて生活しているように思います。最寄りの人のところにビニール袋に入れた水をふろしきに包んで届けた人がありました。「フロシキにつつんだ水なんてね」と笑ったことでしたが、人の心のやさしさを感じました。友の会の生き方が発揮される時なのでしょう。元気にしていますので、ご休心ください。不十分ですが、思いつくまま、報告にかえます。

１月20日　朝

## 震災から２か月

岸　　文子

１月17日の朝、突然ドスン、グラグラ、家が揺れ出した。今まで経験したことのない激震に見舞われた。（この地震で友の会員一人が御夫婦で亡くなられ悲しい思いをしている。）神戸友の家は不思議なほどしっかりと建っていた。

早速共働学舎から宮嶋先生が、お米、パン、味噌、クッキー等を携えて来て下さり、最も被害の大きい長田地区の救援活動を始めて下さった。その後、全国友の会、自由学園、婦人之友社の人たちの応援で、神戸友の会の及ばない所を助けていただいている。

神戸の会員は動ける者達で、全国各地からいただいたスモックを着て、めまぐるしく働いている。友の家の近くの公園でテント生活をしている人達に、昼は友の家で炊いたごはんと全員が心をこめて作って届けてくれるお惣菜を、夕方は実(み)澤山の暖かい汁物を友の家で作り持参している。

被災を受けた子ども達の心を少しでもやわらげたいと、ひな祭りを前にして、工芸研究所の松井さんの応援を得て、子ども係を中心に、３ケ所の小学校で紙びな作りをした。真剣にとりくむ子ども達の楽しそうな顔を見て安心した。

会員のほとんどが食器を割ってしまっているので、３月例会の日に会員向けの友愛セールを、また、公園等に仮設住宅が建ち入居が始まるので、その人達の手助けを考えている。神戸は東西に長く、被害の大きかった東からは、友の家に行くのに現在も交通は断たれているが、皆で手をつなぎやっていきたいと思っている。

我が家は１月19日より、近所の全壊した家の30人近い人達との生活が始まった。菜園を潰し庭にテントを張った。１月23日の電気が来るまでは、夜は早く寝て夜明けと共に起きる自然と共の生活だった。お風呂も全員で大阪まで二週間振りに入りに行った。

近隣の人達との絆も深まったが、親戚や知人を頼っていき、今は一人暮らしだった85歳の人と、３月卒業まで学校を転校したくない家族との生活になった。

地震から２ケ月近くなり、やっと涙が出るようになり、生かされていることを感謝できる様になった。

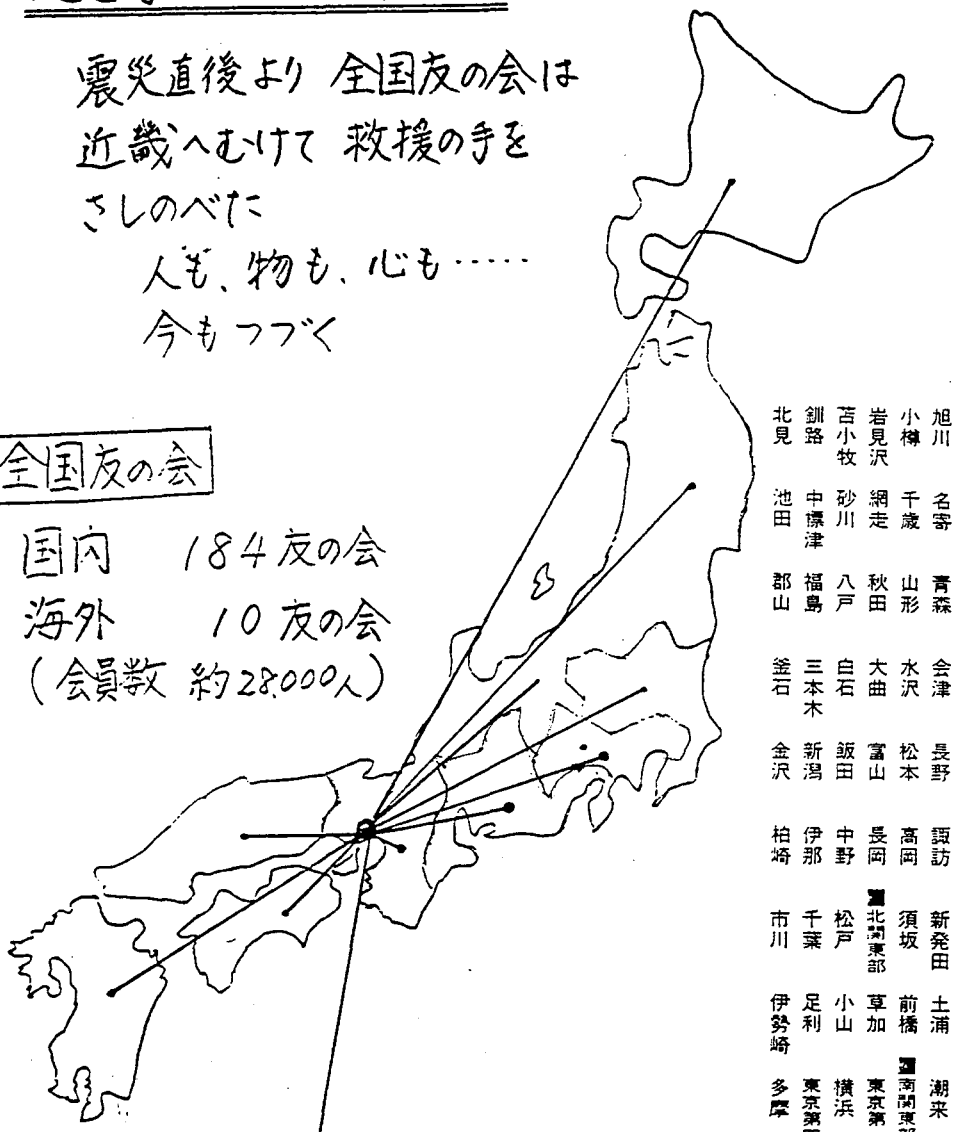
**※被災当時の総リーダー（翌年の救援部リーダー）岸さんが友の会の様子を共働学舎へお知らせしたものです。**

# 心を寄せる 各地友の会

震災直後より 全国友の会は
近畿へむけて 救援の手を
さしのべた
人も、物も、心も……
今もつづく

全国友の会

国内　184友の会
海外　10友の会
（会員数 約28,000人）



■北海道部
札幌　室蘭　倶知安　稚内　弘前　生保内　福井　上越　浦和　熊谷
函館　江別　■東北部　仙台　平　藤尾　上田　武生　水戸　佐原
帯広　深川　盛岡　北上　白河　佐久　木曽　宇都宮　佐野
旭川　名寄　青森　会津　米沢　■信越部　長野　諏訪　三条　小松　高崎　桐生
小樽　千歳　山形　水沢　松本　高岡　須坂　前橋　■南関東部
岩見沢　網走　秋田　大曲　富山　長岡　■北関東部　松戸　小山　草加　東京第一
苫小牧　砂川　八戸　白石　飯田　中野　千葉　足利　横浜　東京第四
釧路　中標津　福島　三本木　新潟　伊那　市川　伊勢崎　多摩　東京第三
北見　池田　郡山　釜石　金沢　柏崎　武蔵野　■東海部　鈴鹿　■中国部　■四国部
■海外部　東京第二　名古屋　松阪　広島　松山
サンパウロ　藤沢　岐阜　新宮　岡山　高松
リオデジャネイロ　静岡　■近畿部　福山　宇和島
ブエノスアイレス　逗子　横須賀　鎌倉　豊橋　四日市　大阪　下関　丸亀
リマ　東京第一　小田原　伊勢　奈良　相模　神戸　宇部　新居浜
ロスアンゼルス　甲府　一宮　豊中　鳥取　町田　浜松　岡崎　京都　倉敷　高知
サクラメント　平塚　知多　姫路　津山　沼津　富士　大垣　津　多治見　舞鶴　米子　尾道　宮崎　佐賀　北九州　長崎　浜田　竜野　和歌山　防府　鹿児島　熊本　福岡　九州部　岩国　山口　加古川　大津　知多　一宮　甲府　平塚　沼津　福知山　川西　豊岡　日野　大田　府中　大社　大山　玉野　柳井　萩　呉　大分　久留米　沖縄　鹿島　島原　別府　大牟田　佐世保　飯塚　中津　佐伯　都城　直方
ニューヨーク
香港
シドニー
バンコック

# 阪神大震災 救援活動

## 三団体連絡会

全国友の会 5,058人

自由学園 1,252人

婦人之友社 85人

その他から 438人

働いた人合計 延 6,833人

神戸友の家

大阪友の家

西宮友の家

近畿部
近隣友の会

宿泊
事務連絡

人の移動
会員訪問
対外交渉

物資運般
引越し

友愛セール 39回
友の家で 公園で ガレージで

救援物資購入

炊き出し 52,000食

人形劇

## われらの公共費

100,207,759円

弔慰金・見舞金 996万円

被災した市へ 1700万円

寝具 1250枚

スモック 3232枚

野菜・米

クッキー・ケーキ

連風

子どものために

木工の会

衣類 400箱

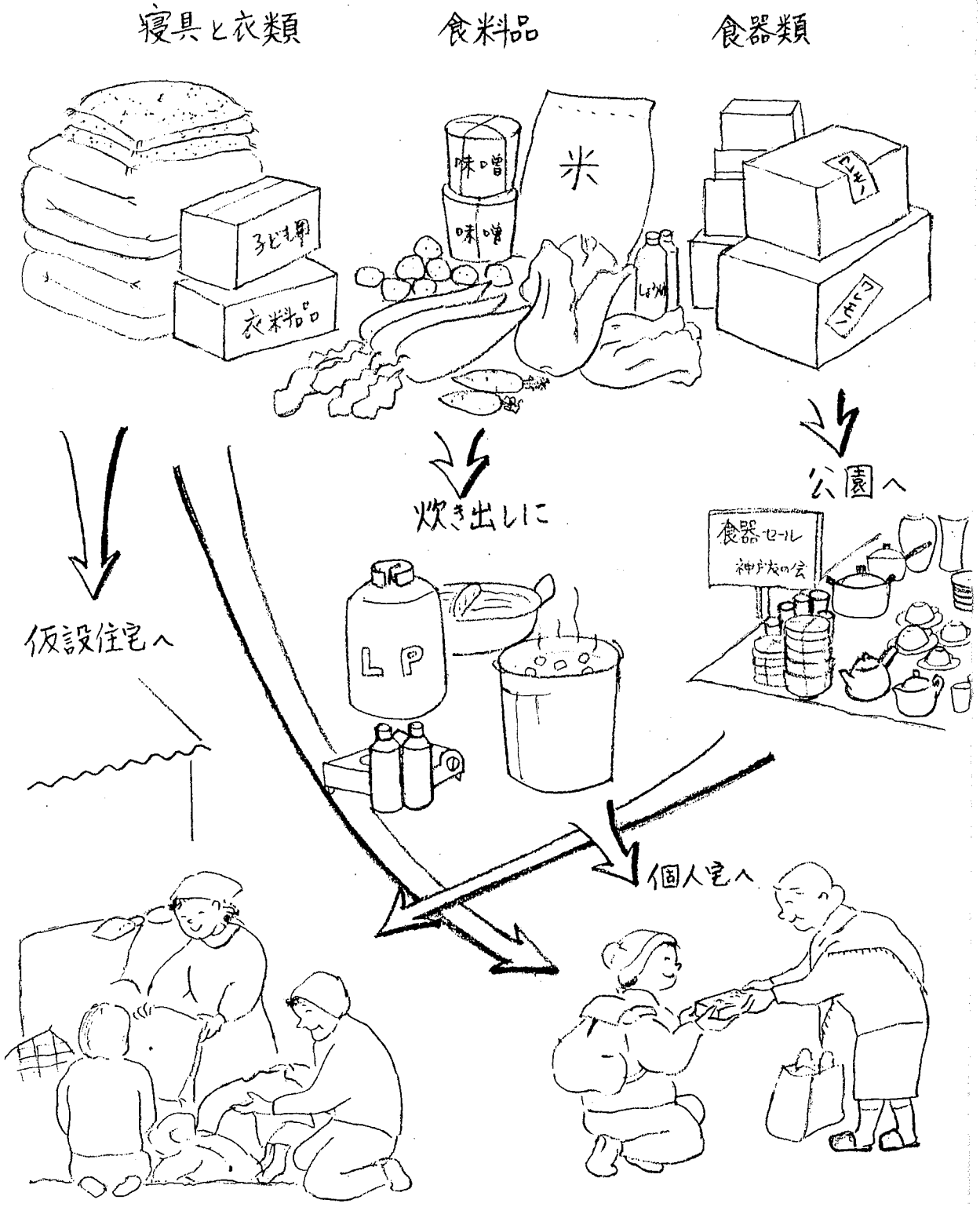
食器類 500箱以上

日用品その他

災害対策本部から
米・炊き出し材料
その他

—友の新聞 第489号より—

# 全国からの救援物資の山



# 「われらの公共費」
# 阪神大震災に関する会計報告

（1995.1.17から1996.1.16まで）

◆入　金

| | |
|---|---|
| 各地友の会 | 59,989,108円 |
| 婦人之友社 | 8,864,000 |
| 〃　読者 | 5,600,000 |
| 自由学園 | 9,073,225 |
| 自由学園収益事業部 | 1,000,000 |
| 自由学園同学会 | 5,000,000 |
| 〃　女子部卒業生会 | 3,000,000 |
| 寄付 | 13,785,087 |
| 他団体より寄付 | 100,000 |
| 入金合計 | 106,411,420円 |

◆出　金

・被災した市への寄付

| | | |
|---|---|---|
| 神戸市 | | 15,000,000 |
| 西宮市 | | 1,000,000 |
| 芦屋市 | | 1,000,000 |
| 計 | A | 17,000,000円 |

・救援活動費

| | | |
|---|---|---|
| 婦人之友社 | | 2,864,000 |
| 自由学園 | | 11,299,339 |
| 近畿部 | | 7,467,178 |
| 大阪友の会 | | 4,157,460 |
| 神戸友の会 | | 17,050,933 |
| 西宮友の会 | | 10,362,570 |
| 豊中友の会 | | 1,566,000 |
| 中央部 | | 5,001,370 |
| 計 | B | 59,768,850円 |

・弔慰金・見舞金

（被災した友の会々員のために）

| | | |
|---|---|---|
| 神戸 | | 4,410,000 |
| 西宮 | | 5,040,000 |
| 豊中 | | 510,000 |
| 計 | C | 9,960,000円 |
| 出金合計 | A＋B＋C | 86,728,850円 |
| 差引 | | 19,682,570円 |

（友の新聞第496号より）

「われらの公共費」は昭和１２年東北地方大冷害の時、その救援生活運動のために、創立者羽仁もと子先生が提案された「一日一銭醵金」の精神を受け継いできたものですが、今回の大震災に当たりその油が備えられていたことをありがたく思いました。（友の新聞第489号より）

## 楽しく遊んだ日々

「**なかよし会**」は避難所で生活している子供たちが、少しでも元気に、明るくすごせるようにとねがって、自由学園の生徒さんの力を借りながら始まりました。

| 月日 | 会場 | 参加した子供 | 遊び |
|---|---|---|---|
| 2．13 | 上筒井小学校 | | |
| 15 | 宮本小学校 | | |
| 18 | 宮本小学校 | 23人 | 紙芝居、サッカー、つや紙織の切り込み工作 |
| 20 | 魚崎小学校 | 20 | おひな様作り |
| 20 | 福池小学校 | | 自由学園初等部よりの便り渡す |
| 20 | 本山第二小学校 | | |
| 20 | 吾妻小学校 | | |
| 22 | 上筒井小学校 | 18 | 紙芝居、サッカー |
| 25 | 宮本小学校 | 20 | おひな様作り、サッカー |
| 26 | 魚崎小学校 | 30 | おひな様作り |
| 3．1 | 上筒井小学校 | 8 | おひな様作り |
| 4 | 宮本小学校 | 18 | エプロンシアター、紙芝居 |
| 8 | 宮本小学校 | 15 | ブーメラン作り |
| 11 | 宮本小学校 | 24 | 人形劇 |
| 15 | 上筒井小学校 | 9 | 人形劇、でてきたお月さま |
| 18 | 宮本小学校 | 34 | 連だこ作り |
| 22 | 春日野小学校 | 9 | ストーリーテリング |
| 25 | 宮本小学校 | | しゃぼん玉、紙芝居 |
| 26 | 魚崎小学校 | 75 | たこ作り、しゃぼん玉 |
| | 渦森中公園 | 15 | 木工の会 |
| | 春日野小学校 | 21 | |
| 27 | 岸宅 | 12 | |
| | 王子スポーツセンター | 24 | |
| 28 | 宮川小学校 | 50 | |
| 29 | 春日野小学校 | 12 | しゃぼん玉 |
| 30 | 高倉台小学校 | 19 | 木工の会 |
| | 六甲アイランド | 23 | |
| | 東舞子文化会館 | 21 | |
| 4．5 | 春日野小学校 | 12 | ブーメラン作り |
| 15 | 宮本小学校 | 19 | なぞなぞ、これなあに |
| 22 | 友の家（中学生） | 20 | 子供読本、大阪よりの救援物資渡す |
| | 宮本小学校 | 8 | 人形劇、折り紙、ボール遊び |
| 5．6 | 宮本小学校 | 8 | 人形劇、折り紙 |
| 13 | 〃 | 8 | しゃぼん玉 |
| 20 | 〃 | 18 | なわとび、綱引き、サッカー |
| 27 | 〃 | 13 | 鬼ごっこ、ドロケー |
| 6．3 | 宮本小学校 | 11 | お手玉、なぞなぞ |
| 10 | 〃 | 13 | 野球、なわとび |
| 17 | 〃 | 13 | くるくる廻る折り紙、バレーボール |
| 24 | 〃 | 10 | |
| 7．1 | 宮本小学校 | 12 | しゃぼん玉 |
| 8 | 〃 | 2 | おえかき、風船遊び |
| 15 | 〃 | 10 | 鬼ごっこ、鉄棒 |
| 22 | 〃 | 9 | 折り紙 |
| 29 | 〃 | 0 | 避難所閉鎖 |

## 三団体の救援活動報告

| | 神　戸　友　の　会 | 全国友の会、近畿部、各地友の会 | 自由学園　婦人之友社 |
|---|---|---|---|
| 1／17（火） | 午前５時46分阪神淡路大地震発生<br>友の会活動（係会の日）できず<br>１月22日の愛読者会（石垣りん氏）中止決定 | 福島先生お菓子の勉強会（大阪）<br>近畿部リーダー会（１／19）<br>} 中止 | 婦人之友社　読者からの義援金受付開始決定 |
| 1／18（水） | | 近畿部中央委員会 | 自由学園・各グループ（学園本体、卒業生会父母会）及び婦人之友社は状況把握と救援活動の打合せを一斉に行う |
| 1／19 | | 西宮友の家での救援活動決定（近畿部） | |
| 1／20（金） | 朝刊に「講演会中止」告知掲載する<br>放送局へ会員に向けてのメッセージを依頼<br>神戸友の会の皆さん<br>ご無事ですか<br>舞子方面田中、<br>須磨方面鞘本まで<br>連絡して下さい | | 婦人之友社から神戸市へ災害見舞金500万円決定<br>音楽会（練馬文化センターにて）での募金178万円 |
| 1／21（土） | 初めて会員が友の家の様子を見て近畿部中央委員に報告 | 中央部勝木、羽仁及び婦人之友社編集長　西宮友の家へ | 男子学部生５人教師１人西宮へ（第１陣） |
| 1／22（日） | 近くの会員で食器など片づける<br>友の家にFAX取りつける<br>共働学舎より米1,200kg味噌他たくさんの物届く | 中央委員２人、婦人之友社１人、学園指導者、男子学部生、活動拠点を西宮より神戸へ、救援活動はじまる | |
| 1／23（月） | 共働学舎の宮嶋先生　男子２人と友の家へ来られる | 第１回　三団体連絡会（東京にて）<br>三団体が協力（一致して、救援体制を組むことを決定　卒業生も参加する）<br>救援活動の組織できる<br>代表者　全国友の会　勝　木　澄　子（中央部中央委員）<br>婦人之友社　梶　浦　勝　義<br>自由学園　矢　野　恭　弘<br>われらの公共費より<br>見舞金、救援活動費を送ることを決定<br>災害見舞金として<br>神戸市へ　1,000万円　西宮市へ　100万円　芦屋市へ　100万円<br>救援活動費として<br>大阪友の会へ　100万円　神戸友の会へ　100万円<br>西宮友の会へ　100万円　近畿部へ　200万円 | |
| 1／24（火） | | 全国中央委員会で現地報告を聞く（東京） | 婦人之友社　被災地へ向う |
| 1／25（水） | 会員829人の安否ほぼ確認できる | 神戸市長訪問　災害見舞金贈る（三団体より） | 女子学生部２人　教師１人　西宮へ |
| 1／26（木） | 震災後はじめての委員会<br>会員の状況を報告<br>829人中617人の在宅を確認<br>三団体(友社、学園、友の会)の協力の場としての救援活動を西宮から神戸へ移す<br>神戸友の会は自分の生活を建て直すのが先決<br>日直、宿直を置くことにする<br>神戸YWCAからボランティアの宿泊について要請を受ける | | |
| 1／27（金） | 会員の葬儀－岡田素子さん（御影方面）<br>市内の情勢急速に変わる<br>公的機関の手の届かない所への細かい配慮が必要<br>第二友の家使用不可能と判明 | 中央部より救援活動速報(1)、各地友の会リーダーへ発送 | |
| 1／28（土） | 午后６時30分友の家水道出る！<br>YWCAボランティアの宿泊始まる<br>活動方針決まる<br>①会員訪問…安否を確かめる<br>②炊き出し…ライフラインを断れて困っている人たちに温かい食物を<br>③物資供給…全国からの救援物資を必要な方にお届けする | 各地友の会から働き人の応援始まる<br>三団体連絡会（東京）<br>大阪友の会より200食のおかず届きはじめる | 女子部より神戸での活動参加始まる |

| | 神　戸　友　の　会 | 全国友の会、近畿部、各地友の会 | 自由学園　婦人之友社 |
|---|---|---|---|
| 1／29<br>（日） | 神戸市災害対策本部公認のボランティア団体に決定され物資の供給、運搬の枠が大きく拡がる<br>㊙のステッカーをもらう<br>炊き出し始まる<br>神戸市からの要請「公的機関の手の届かないところへ友の会ならではの支援をしてほしい。在宅のお年寄り避難所へ入れない方々等に」 | | 活動拠点神戸へ移す<br>以後自由学園生、教師　婦人之友社<br>毎日合せて５～20名　３月末まで神戸友の家に常駐し救援活動に従事<br>6：30　起床　身じたく　掃除<br>7：20　礼拝　朝食<br>8：20　朝のミーティング、活動打合せ<br>8：30　救援活動に従事<br>↑　家屋の整理<br>　屋根のシート掛け<br>　引越し<br>↓　救援物資配布<br>　子どもの相手<br>17：00<br>18：00　夕食　報告<br>20：30　リーダーミーティング<br>22：30　就寝 |
| 1／30<br>（月） | 西の方面の会員にこれまでの動きを報告（於　第二友の家）<br>会員訪問はじまる<br>**神戸友の会会員の皆さん**<br>思いがけない震災に声も言葉もありません。<br>悪夢のような日が過ぎて、今日やっと皆様をおたずねすることが出来るようになりました、お元気でしょうか？<br>何かお困りのことはありませんか？<br>第一友の家へ連絡して下さい。<br>出来るだけのことをしてゆきたいと相談しております。<br>現在友の家では、近隣友の会、婦人之友社、自由学園の協力のもとに会員の皆さんをはじめ近隣で被災された方への救援活動がはじめられています。物資で不足しているものや、その他困っていることがあれば何でも今すぐ友の家へ連絡して下さい。近所の人の物資も一緒に運びます。<br>神戸友の会　221-2941<br>241-9213<br>各地からの救援物資、食料品を携えて、学園生運転の車で１人１人の安否を尋ねる。この頃から車の渋滞がひどくなり活動開始は朝早く、夜は遅くなる。 | 三団体連絡会（東京）<br>スモックエプロン、物資を送る相談<br>公共費より被災者に見舞金を出すことを決定 | 自由学園、関西父母会が救援物資の運搬に参加<br>京都の進々堂より食パンの提供を受ける（ボランティアの朝食用に） |
| 1／31<br>（火） | | 全国各地よりスモック発送はじまる | |
| 2／1<br>（水） | 会員の被災状況しらべを各方面に依頼 | 見舞金を送るため会員の被災状況調べを神戸、西宮に依頼 | |
| 2／2<br>（木） | 筒井児童公園炊き出し終了（５日間）<br>真砂炊き出し始まる<br>灘区よりボランティア団体に指定 | 全国各地より受験生受け入れ（宿）の申し出あり | 男子部OBが救援活動に参加一層強力になる |
| 2／3<br>（木） | 会員の被災状況中央部に知らせる | | 自由学園（男子部）コンコンブルを生徒が焼いて被災地へ届ける |
| 2／4<br>（金） | | | 女子部卒業生会関西委員３人訪問 |
| 2／5<br>（土） | 淡路島の会員訪問 | 淡路島へ渡り会員宅及び卒業生宅へお見舞訪問<br>自由学園那須農場の牛乳と学園パン工場のコンコンブル持参 | 婦人之友社　友の会指定書店「海文堂」見舞う |
| 2／7<br>（月） | ２月例会（出席110名、他９名）<br>経過報告　方面　最寄の様子　第二友の家のこと他<br>午後リーダー会 | | 例会に自由学園教師、婦人之友社代表出席。女子部製作の、スモック贈る |

| | 神　戸　友　の　会 | 全国友の会、近畿部、各地友の会 | 自由学園　婦人之友社 |
|---|---|---|---|
| 2／8（水） | 地震後３週間たち情勢も変る<br>○学校が始まる　○仮設住宅への転居<br>○道路も緊急物資輸送から復興資材の輸送へ<br>明石生活団６才組はじめて登団<br>中央区宮本通ローラー作戦<br>実体調査とビラ配り | 救援活動速報(2)発送 | |
| 2／9（木） | 宮本公園の炊き出し始める<br>お年寄りを有馬温泉へ入浴に<br>（2月24日まで続く）<br>愛真ホームのお年寄りへ暖かいおでんなどを届ける | | |
| 2／10（金） | 灘北公園の炊き出し終了（13日間）<br>「温かくておいしい食事だった」とお礼<br>委員会…神戸で近畿部会をする事に決定 | | 工芸研究所より松井さん来神<br>なかよし会の準備始める |
| 2／11（土） | 市内の状況かわる。友の会活動も変える必要あり、長田区は対策本部が動き出したので行く必要がなくなった。<br>上筒井小学校には調理助手４、５人ほしい。 | 近畿部中央委員会 | 学園長　羽仁翹先生来神炊き出しに参加　長田地区訪問 |
| 2／12（日） | なかよし会打合せ<br>上筒井小学校炊き出しお手伝い始まる | | |
| 2／14（火） | 夕食前、友の家の水道水が出なくなる。<br>学園生がタンクで水運びをしてくれる<br>真砂公園　炊き出し終了（12日間） | 中央部　勝木　羽仁来神 | 工芸研究所　太田さん　片岡さん来神 |
| 2／15（水） | 神戸生活団６才組はじめて登団 | 中央委員、女子部の人たちと長田方面の被害状況視察 | 王子体育館に掃除機２台贈呈<br>（友の会と連名） |
| 2／17（金） | リーダー会…各方面の様子を聞き合う | 大阪友の会からの惣菜200食終了 | |
| 2／18（土） | 「なかよし会」活動　宮本小学校<br>参加23人<br>サッカー　折紙　紙芝居　働き人13人<br>お惣菜200食　西の６方面で受け持つ | | 女子部で宿泊者の食事作りはじめる<br>女子部卒業生も交代で参加 |
| 2／19（日） | 「なかよし会」　上筒井小学校 | | |
| 2／21（火） | 仮設のことで中央区役所訪問<br>駒江児童館慰問（おやつ持参） | 三団体連絡会（東京） | |
| 2／22（水） | ガスが出る！ | 「われらの公共費」より見舞金<br>弔慰金996万円送る（被災地会員へ） | 中央委員会 |
| 2／23（木） | 第二友の家解体３／31を確認 | | |
| 2／24（金） | リーダー会<br>上筒井小学校炊き出し終了（11日間） | | 婦人之友社　三宅社長来神<br>炊き出しに参加　愛真ホーム慰問<br>長田地区訪問 |
| 2／25（土） | 「なかよし会」宮本小学校<br>…ひな人形作り | 西宮友の家で友愛セール　神戸からも見学に行き元気をもらって帰る | |
| 2／26（日） | 「なかよし会」魚崎小学校 | | |
| 2／27（月） | 第二友の家片づけ | 友の新聞２月号に救援活動を掲載 | |
| 3／1（水） | 婦人之友愛読者訪問を各方面で開始、<br>第二友の家片づけ、委員会<br>「なかよし会」上筒井小学校　ひな人形つくり | | |
| 3／2（木） | 吾妻小学校の掃除機等救援資材供給 | | |
| 3／3（金） | リーダー会 | | |
| 3／4（土） | 鳴尾東小学校へ救援物資 | | |
| 3／6（月） | 第二友の家　台所片づけ<br>灘区児童館へおもちゃ提供 | 中央部　大塚、勝木　神戸へ | |

| | 神　戸　友　の　会 | 全国友の会、近畿部、各地友の会 | 自由学園　婦人之友社 |
|---|---|---|---|
| 3／7<br>（火） | 3月例会　224人出席<br>全国からのスモックエプロン全会員に配る。会員間の友愛セール | 中央部　大塚、勝木、愛真ホーム訪問 | 例会に自由学園教師、婦人之友社代表出席 |
| 3／8<br>（水） | 「なかよし会」宮本小学校<br>上筒井小学校 | 近畿部リーダー会 | |
| 3／9<br>（木） | 王子スポーツセンターにて食器セール（お客さま114人）<br>アドラ教会にてボランティア団体の連絡会に出席 | 三団体連絡会（東京）<br>各地の経済、今後の救援活動<br>愛真ホーム訪問ほか 春休み学園その他の働き | 女子部帰京 |
| 3／10<br>（金） | 宮本公園の炊き出し終了（30日間）<br>YWCAボランティアの宿泊終了 | | 工芸研究所<br>吉岡さん、津野田さん来神 |
| 3／11<br>（土） | 「なかよし会」宮本小学校<br>食器セール（第一友の家）入場263人 | 中央部から上田、木村、安藤<br>友愛セールの手伝いに | |
| 3／12<br>（日） | 「なかよし会」春日野小学校<br>シャボン玉<br>食器セール（第一友の家）入場245人<br>神戸市災害対策本部ボランティア係へ「なかよし会」「木工の会」のことを報告。 | | |
| 3／15 | 「なかよし会」上筒井小学校 | | |
| 3／16<br>（木） | | | 中川先生　木工の会　準備打合せのため来神 |
| 3／17<br>（金） | リーダー会 | この日までに全国各地より集まったスモックエプロン2,785枚 | |
| 3／18 | 「なかよし会」宮本小学校　たこあげ | 大阪友の会　谷さん　たこあげに来神 | |
| 3／19 | 神戸生活団卒業式 | | |
| 3／20<br>（月） | | | 男子学部生救援活動終了<br>以後は地元の学園生へひきつぐ |
| 3／24<br>（金） | | 阪神淡路大震災復興援助資金として公共費より5,000万円あてることについて各地中央委員に連絡する（被災会員に貸出す） | |
| 3／25<br>（土） | 明石生活団卒業式 | | |
| 3／26<br>（日） | 「なかよし会」上筒井小学校<br>「木工の会」　春日野小学校 | | |
| 3／27<br>（月） | 「なかよし会」魚崎小学校 | | |
| 3／28<br>（火） | | 三団体連絡会 | |
| 3／29<br>（水） | 「なかよし会」春日野小学校<br>灘南仮設セール | 中央部　勝木、甘利　神戸へ | |
| 3／31<br>（金） | | | 友の家の清掃をする |
| | 1月～3月の救援活動を終え、昼食を共にし感謝会をもつ<br>現地救援活動終了 | | |
| | 4月以降は各方面（11方面）で仮設訪問、仮設での友愛セールなどの救援活動を続ける<br><br>震　災　展<br>自然の力、人の力<br>わたしたちの体験から<br><br>と　き　1996年3月28日（木）、29日（金）、30日（土）<br>午前10：00～午後4：00<br>ところ　神戸友の家 | 4月以降も各地より救援物資、友愛セール用の製作品など届く | 「木工の会」<br>3／26日　渦森中公園　15名<br>春日野小学校　21名<br>27日　王子スポーツセンター　24名<br>岸宅　11名＋4名（大人）<br>28日　宮川小学校　41名＋10名（大人）<br>29日　西宮友の会　20名<br>兵庫銀行（芦屋）　28名<br>30日　高倉台小学校　19名<br>六甲アイランド　24名<br>東舞子文化会館　21名<br><br>4月末<br>婦人之友社より被災地の読者、約5,000名へお見舞いのギフトカード1人3,000円分贈呈される。<br>「春休み」「夏休み」「冬休み」自由学園生徒による「木工の会」「なかよし会」「仮設住宅訪問」等、活動が継続される。<br>「愛真ホーム」訪問　草刈りの奉仕、踏み台を配る |

## 炊き出しのこと

1月17日地震のあった直後は、私たち神戸の会員は、自分のことで精一杯だったが、様子がわかるにつれ、いち早く自宅を解放し、炊き出しを始めた人もあった。1月23日には共働学舎から宮嶋先生が自由学園の生徒さんと共にお米などの食料を携えてかけつけて下さった。又、全国友の会中央部、婦人之友社、自由学園の先生及び学園生、学園卒業生も次々来神され、救援の一つとして神戸友の家で炊き出しをすることになった。1月29日女子部学生と近くに住む会員で100食分の炊き出しを始めた。最初は材料が地元では手に入りにくく、大変苦労したが次第に自由学園、近隣友の会、中央区のボランティア本部、愛読者など多くの方々のご好意で集められた。その他近隣友の会からはお惣菜を200食とお弁当など毎日毎日届けられた。皆泊り込みの働きだった。震災後約1ヵ月たった2月18日からは女子部学生と神戸の会員が後を引きつぎ3月10日まで続けられた。

| 月 | 働き人 | 献立 | 行先 | 御飯 | お菜 | 汁物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1／29 | | けんちん風味噌汁（とり） | 筒井公園 | 100 | 0 | 100 | |
| 30 | | クリームシチュー（とり） | 〃 | 200 | 0 | 230 | 働き用30 |
| 31 | | 味噌汁カレー味すいとん（豚、とり） | | 300 | 大阪より切干大根200 | 300 | 筒井公園に先着があったので、灘北公園、道端、残りYWCAで分ける |
| 2／1 | 10人 | トマト味スープ（ミートボール） | 〃 | 250 | 〃 | 300 | |
| 2 | 12 | 豚汁（豚） | 筒井公園、灘北 | 280 | 〃 | 300 | |
| 3 | | 味噌味（とり） | 〃 | 300 | 〃 | 300 | |
| 4 | | スープ（ベーコン） | 〃 | 300 | 〃 | 300 | |
| 5 | | 味噌味（とうふ、ミートボール） | 〃 | 300 | 〃 | 300 | |
| 6 | | 粕汁（塩鮭） | 〃 | 300 | 〃 | 300 | |
| 7 | | カレースープ | 〃 | 300 | 〃 | 300 | |
| 8 | | 牛乳スープ（ミートボール） | 灘北、眞砂 | 270 | 〃 | 270 | |
| 9 | | そぼろ汁（豚ミンチ） | 灘北、宮本、眞砂 | 270 | 〃 | 370 | 120人分余ったので、YWCAへ持って行った。宮本はは汁物だけ |
| 10 | | かみなり汁（とうふ） | 灘北、宮本、眞砂 | 300 | 〃 | 400 | |
| 11 | | 味噌味（洋風）（揚げもち、ミートボール） | 〃 | 300 | 〃 | 350 | 宮本、昼に御飯とお菜、夕食は汁物だけとなった。 |
| 12 | | 洋風スープ（ベーコン） | 宮本、眞砂 | 350 | 〃 | 450 | 〃 |
| 13 | | 豚汁（豚） | 〃 | 350 | 〃 | 400 | 〃 |
| 14 | | カレースープ（豚） | 〃 | 350 | 〃 | 350 | |
| 15 | | 味噌汁（豚） | 宮本公園 | 270 | 〃 | 350 | |
| 16 | | カレースープ | 〃 | 270 | 〃 | 350 | |
| 17 | | 豚汁すいとん入り（豚） | 〃 | 270 | 〃 | 350 | |
| 18 | | 粕汁（塩鮭） | 〃 | 100 | 〃 | 350 | |
| 19 | | 洋風雑煮（とり） | 〃 | 270 | 〃 | 400 | |
| 20 | 7 | 味噌味（豚、牛） | 〃 | 100 | 〃 | 400 | |
| 21 | 6 | スープ（ミートボール） | 〃 | 339 | 〃 | 383 | おかゆ宮本公園1人分 |
| 22 | 6 | そぼろ汁（とり、豚ミンチ） | 〃 | 200 | 〃 | 400 | |
| 23 | 11 | スープ煮（とり） | 〃 | 410 | 320 | 365 | ガスが出る様になって御飯の量を増やした。 |
| 24 | 9 | 豚汁（豚） | 〃 | 413 | 214 | 400 | 入れ方が少なくて330人に分けたので100人分位余ったのでYWCAへ届けた。 |
| 25 | 5 | 味噌汁カレー味（豚） | 〃 | 300 | 210 | 400 | |
| 26 | 7＋4 | 味噌汁（ミンチボール入り） | 〃 | 大阪友の会うどん500人分 | | 368 | 少し残りYへ届けた。 |
| 27 | 6 | スープ（シーチキン、ベーコン） | 〃 | 230 | 200 | 353 | |
| 28 | 13 | 豚汁（豚） | 〃 | 300 | 200 | 350 | |
| 3／1 | 9 | 味噌汁（とうふ） | 〃 | 422 | 200 | 330 | 354人に分けたが少し量が多く残ったので50人分YMCAへ |
| 2 | 7 | 和風ビーフシチュー（牛） | 〃 | 322 | 105 | 354 | |
| 3 | 5 | しじみ汁 | 〃 | 300 | 200 | 400 | 雨で人が少なかった。YWCAへ100人分位届けた。 |
| 4 | 8 | 洋風豚汁（味噌味）（豚） | 宮本公園 | 320 | 200 | 357 | 70人分位残ったのでYへ |
| 5 | 6 | クリームシチュー（牛、豚） | 〃 | 小豆ごはん400 | 215 | 315 | |
| 〃 | 4 | カレー味雑煮（とり） | 昼スポーツセンター | | | 200 | 50人分位余りYWCAへ |
| 〃 | | ぜんざい | 県庁ホール、福祉センター | ぜんざい90人分 | | | 材料は中央区より |
| 6 | 7 | 豚汁（豚） | 宮本公園 | 300 | 200 | 261 | 余り気味が続いたので、量を減らす。前日に材料を用意してあったので、上筒井小学校へ1鍋分届けた。 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 上筒井小学校 | | | 180 | |
| 〃 | 〃 | ぜんざい | 筒井台中学校 | ぜんざい90人分 | | | 材料中央区より |
| 7 | 6 | 味噌入りカレースープ（とり） | 宮本公園 | 200 | 200 | 300 | |
| 8 | 8 | 和風シチュー（豚ミンチ） | 〃 | 200 | 200 | 300 | |
| 9 | 5 | しじみ汁 | 〃 | 383 | 200 | 265 | |
| 10 | 6 | 中華風かき玉汁（とり、卵） | 〃 | 315 | 200 | 330 | |
| 合計41日 | | | | 11,454 | | 14,031＋(91) | |

**※炊き出し　御　飯　約11,454食**
初めは作った量、後は配った量なので数は確かでない。
**汁　物　約14,031食**
（内スポーツセンター雑煮200食を含む）
**ぜんざい　180食**
**うどん　500食（大阪友の会）**
29日～2月18日頃迄は、炊き出しと同じ物を働き人に食べてもらった。

**保温の工夫**… とろみをつける、容器を包む
**食品の取り合わせ**… 肉20～30g、野菜100gを
**味付けの工夫**… みそ味、塩味、カレー味他
**多くの人に公平に**… 切り方を小さく、火の通りも早い

# 会員の被災状況

会員数 816

7月末第3回 ｱﾝｹｰﾄより　集計数 713

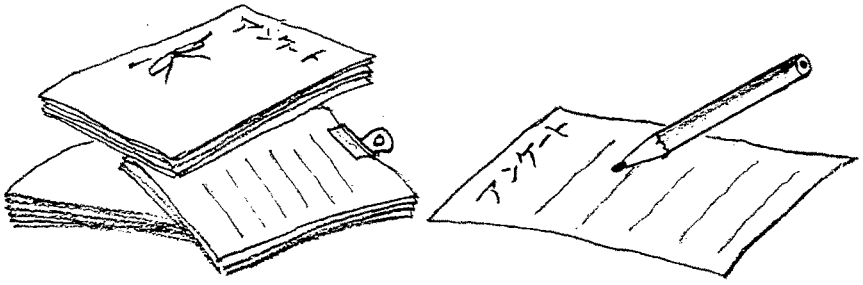
| 方面名 | 被害なし | 一部損壊 | 半壊 | 全壊 | 全焼 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 甲南 | 7 | 33 | 17 | 7 | 1 | 65 |
| 御影 | 2 | 40 | 11 | 8 | 0 | 61 |
| 灘 | 12 | 24 | 14 | 6 | 1 | 57 |
| 神有 | 33 | 41 | 0 | 0 | 0 | 74 |
| 鈴蘭台 | 29 | 21 | 0 | 0 | 0 | 50 |
| 長田 | 8 | 18 | 0 | 4 | 2 | 32 |
| 須磨 | 57 | 17 | 8 | 8 | 0 | 90 |
| 垂水 | 17 | 34 | 6 | 1 | 0 | 58 |
| 舞子 | 14 | 68 | 7 | 0 | 0 | 89 |
| 西神 | 21 | 8 | 0 | 0 | 0 | 29 |
| 明石 | 20 | 54 | 16 | 3 | 0 | 93 |
| 通信 | 12 | 2 | 1 | 0 | 0 | 15 |
| 計 | 232 | 360 | 80 | 37 | 4 | 713 |

震災から１カ月余りが過ぎ、皆の気持ちがほんの少し落ち着きかけて来た２月末に第１回目のアンケートを出しました。
配ることも、回収することも大変な状況ではありましたし、まだまだ生活も大変、気持ちの整理も出来ず、お答え頂けない方も多くありました。

それでも約430名の方がお答え下さいました。
その時のアンケートからＮｏ６の「震災を通して感じたこと、思っていること」を提出下さった方全員原文のまま記載しています。

震　災　に　つ　い　て

1　5時46分 あなたは何をしていましたか？すぐ何をしましたか？
2　震災直後困ったことは何でしたか？
3　今困っていることは何ですか？
4　準備していてよかったことは何でしたか？
5　これからのことで不安に思うことは何ですか？
6　この震災を通しての体験　感じたこと、思っていること等お書き下さい。



# 甲南方面

・人の情、友情がありがたく各々の人間性が出たのではないかと思います。
・物欲が一遍になくなりました。
・３団体の協力による働き、支援の見事さに感心した。
・この体験を通して自分が一歩変わったのではないかと思う。
・まだテント生活している人を見るにつけ積極的に動けない自分がはがゆい。

家の近くは倒壊したお家もなく、直後は、これ程まで被害が出ているとは想像もつきませんでした。17日はラジオからの情報だけが頼りでした。しかし、余震に脅えながら家族を守ことだけを考えていました。水に余裕があったので、裏に住む老夫婦に水だけはすぐ届けたのですが、今から思えば、食事はどうしたんだろう？近くに住む娘さん夫婦や息子さん夫婦は17日には来ていたのかしら？と気付かずにいたことがたくさんありました。余裕のあるところから人を手助けすることはたやすいけれど、余裕のないところで他人を気遣い、手助けすることは出来なかったと思いました。会社の人におにぎりをたくさんつくった時も、何日も続いたら家が今度は米が足りなくなって困るナァ…と思ってしまい、家族のことが優先で必死になっていたように思えます。水汲みをしていても近所の人が助けて下さったり、声をかけて下さり、食べ物を分けて下さったりしました。やっと、私の方からもパンを作って配ったり出来ましたが自分の方から働き掛けることは難しかったです。今回のことで近所の方、近くの商店街（岡本商店街）の方とはとても協力しあえ、励ましあっていたので心強かったです。

私達の命は私達の意志によってあるのではないこと、与えられているものだという事、公のものだということを感じた。この神戸の経験が世界中の国の為によく話がされるようにと思う。“思いに思う”という羽仁先生の御言葉の心掛けが実感として今までよりより深く分かった気がする。

家具等、物があまりにも多すぎた。これからはシンプルに暮らしてゆきたいと思う。

自宅も家族も無事なのに、あのパニック状況の恐怖が完全に抜けません。火事と救急車、ヘリコプターの音、どこで何が一日中起こっているのかわからないその恐怖。本山中町の火事ではあんなに離れているのに、「避難の用意だけしといて下さい。」と、まわってきて本当にびっくりした。ずいぶん落ち着いて来たものの、すぐ下の町並みのひどさにやはり買物に行くとショックを受けます。でも家族がおかずの無理を言わずにいてくれたことや、地震当日近くに家族がいて心丈夫でした。区役所が情報の伝達をしないので、給水車ひとつにしてもどこで何時ということがなかった。口コミで近所の人と行きました。物資がある人はたくさんもっている上にまだもらっている人がいた。人間性が出た。

何よりも主人と二人でいたこと、年齢がもう五年あとだったら耐えられたかどうか、住居が壊れなかったことなど本当に幸運だったことを感謝しています。お水、電気のありがたさを痛感。ご近所の人、もよりの人の親切を受け本当に、感謝しています。一日目はびっくりしたのと家の中がガチャガチャなので主人と手分けして片付け、翌朝テレビを見るまでこんな大地震とは思わなかったし、何も情報が入らず、19日ダイエーに買物に並んで初めて人からいろいろ教えられ、水が溢れているところから水を汲むことを知った。

失った物はたくさんありますが、住める家があることは幸いです。２月２日までエレベーターも動かない状態で何をするにも大変でしたが、全焼の方、全壊の方のことを思うと、身のつまる思いです。

この辺りは、家屋の倒壊もひどくたくさんの命もなくなった地域である。その中で家族全員無事だったことに感謝でいっぱいで、これまでの価値観とはだいぶかわったと思う。特に、物欲はかなり減ったと思う。食器にしても衣類にしても、高価な物はもういらないと思った。残った食器を改めて見てそう思った。下の戸棚に入れていた洋皿やスープ皿が残ったので隣にわけてあげ、喜んでもらった。

いろいろな方と親しくなり困ったことを助け合えて、近くの寮の若い人達の助けが得られうれしかった。友の会、子供の会社の方、仕事の仲間などの助けがうれしかった。

・非常持出しの準備を常にしておく。
・出来れば二階で寝る。
・公園などに貯水槽を造っておく（防火用水）。

五日後ぐらいに実家に避難出来ましたが、ボランティアの活動を新聞などで知る度に胸が熱くなりました。自分が人のために何が出来るだろうかと改めて思いました。神戸に３月19日に帰って来て、何のボランティア経験もない自分が出来ることは何か、また、これから勉強しながら何をやっていけばよいかを考えています。

・『ガンバレ』というメッセージははじめ新鮮でうれしかったが、だんだんうっとうしく感じだした。『そっとしてほしい』という気になる。
・物資が多く出まわりあつかましくなってきた。ただで物をもらう習慣がつくのがおそろしい。
・当時は近所との助け合いが遠い親戚よりありがたかった。
・救援物資の中にひどいものがまじっているのが悲しかった。

家族揃って無事だったことが何よりでした。思いがけない時に何がやってくるかわからない、心の準備をしておくこと。どんな時でも相手を思いやる心を養いたい。方面の人の心の広さ、やさしさを随分感じさせられ、自分もそうなりたいと願います。

物のもろさ生命のはかなさ、電気、水道、ガス、便利なものに依りかかっていすぎた。置き場所があったからだが色々な物が人のお役に立って良かったし、全国からの支援本当に頭が下がります。競争を忘れて協力、助け合いの人の温かさを再認識しました。

・後から家の中の様子を見てけがもなく外に出れたのがうその様です。
　運が良かったとしかいいようがありません。
・友の会でいつもいっている「家庭は簡素に　社会は豊富に」を実践する時だと思いました。これからは物を増やさないよう適量で生活していきたいと思います。

・近所づきあいの大切さ
・歯の治療、健康に留意して、薬や、医師との連絡がつくようにしておくこと。
・余分な物は持たない。整理整頓。少ない材料、燃料のない中でも豊かに暮らせるように心がける。
・正しい情報を見極めて流言などにまどわされないこと。

・物の少ない、簡素な生活の大切さ
・物でも、励ましでもなく、同じ立場にたってのいたわり、優しさが被災民の心を和らげる、心のケアが一番だと思う。

・寝る部屋に荷物をあまり置かない様にしたいが現実には無理
・家具の固定

避難先（大阪吹田市）で豊中友の会の吉岡律子さんにミシンをお借りして生産のエプロンを縫い続けることが出来ました。友の会は日本全国どこにいっても、同じ仲間として親しくして下さり、あたたかくしてもらって感激でした。皆様のご親切を忘れず一生懸命働こうと思います。

## 御影方面

突然の事で、何が何やら判らないまま数秒間がすぎました。
天災は予知するのがむずかしいと言われていますが、せめて心の準備だけでもしておくべきと思いました。これは天災に限らず、事故も含まれます。
これだけ、社会機能すべてが便利で、なおかつ複雑になっている中で、生活するという事はいつ、何かが起こっても不思議はないという事を今回思い知らされました。物に左右される生活にはこの辺りで卒業したいものです。家の中はsimpleに必要最小限にしたいものです。
対人との関わりの中で友の大切さが身にしみました。電話で安否を確かめてくれる友、心温まる手紙を書いてくれた友、暖かい気持ちを一身に受けました。その気持ちを今

後、被災された方々に向けていきたいと思っております。

何がおきても不思議でないな！と思います。身辺も心も常に身軽にして家族を守っていきたい。

何事にも常に備えておくべきだと思った。子供にもライフラインを絶たれても、生きていくための勉強をさせたいと思った。

震災後３日後にチャーター船にて避難したが、大阪にいると別世界の様な感じだった。なぜ神戸が！と思うが、これからのことを前向きに考えねばと思った。

人と人の間に暖かさがあることを改めて感じました。

命が助かったことへの感謝と近所の人達とのつながりの大切さを思った。
部屋中散乱した物を見て、何と多くの物に囲まれて生活しているのか、これが皆必要な物なのかと思った。これからは本当に必要なものを少しだけ持つよう整理していきたい。

マンションの管理組合のボランティアとして給水車がついたら手伝うとか、シャワールームの開設に伴う受付係の仕事、電話番などをしていましたが、今まであまり話す機会のなかった近所の人達と話す機会を与えられ、一緒にボランティアする事で連帯感が生まれました。運命共同体、というか主人が仕事でいない時も子供と３人だけと思うと不安でしたが、組合を手伝う事で不思議と落ちついて生活できたのがこの度の新しい発見でした。

自然に対する人間の弱さ。災害に対する準備のなさ（気持ち・物両面）。

水、電気、ガスなどのありがたさをしみじみ感じる。原点にもどらされた感じがした。紙一重で亡くなった方が多い中、自分が生かされているという気持ち、大切に生きねばと思う。

いざという時の備えの必要性を強く感じました。自然界の中での人間というものの小ささを感じ、自然にさからっての人間中心の考え方の誤りを再認識した。

やはり傷一つなく家族4人無事であったということ。命とは、尊いものであると改めて感じました。人間の欲や必要とする物は二の次であると思いました。

幸い六甲アイランドではケガ・倒壊などがなかったのですが、一度本土の方へ渡ると別世界の様子に、胸が痛みます。

一瞬の地震で粉々のジャンクと化した（少しの自慢の）食器・家具の類が、多くのことを問いかけた。簡素な生活をしたい。ものにとらわれない生活をしたいと思い、本当に必要かそうでないか、よく見極めたい。
友の会でよく言われてきたことを今さらのようにかみしめている。

常に、非常持ち出し袋のようなものを準備しておくことが必要だと思いました。今後持ち物の点検をし、身辺をもっと整理するようにしたいと思います。
近所の方達とのふれあいも大切だと感じました。

物にこだわって生きることのむなしさを感じる。
今まで生きてきて、私が被災者になるなんて思ったことがなかった。北海道に祖父たちがいるのであちらで何かあれば、「あー大丈夫かなー」と考える程度だった。
今でも、これからも何かがあれば、私のできる範囲で何かをしたい。

持ち家で住むのが良いかどうか。（ひとつまちがえればローンだけが残る、という状態になっていたかと思うとぞっとします。）

今までマンションの近所の方と付き合いをあまりしていませんでしたが、今回のことで助けていただくことや、色々な情報をいただいたり、近所の方との付き合いの大切さを感じました。

水運びから種々、周囲の方々の親切をつくづく感じました。

多くの親戚・友人からのお見舞い、友情が何より嬉しく励まされた。

同じマンションの方々の心づかい、友情の有難さ、友の会にいる者の幸せ、近隣友の会の協力の有難さ、友の会、自由学園、卒業生会、婦人之友社の方々の寝食を忘れた救援活動には感謝の他ありません。

ご近所の方と公園でたき火をしながら食糧・水等を持ち寄り17日の夜をすごし、普段は顔をあわす程度でも、本当に大変な時は助け合い、励ましあうことができることがわかりとてもうれしかった。友の会、自由学園の生徒さんにもお世話になり、助けてもらえることが本当にありがたいことと思った。
家族そろっていて安心感があってのことかもしれませんが、電話もあまり通じず、普段通りの生活ができない中で、あれもこれもしないといけないと思うのではなく、できることをすればいいという、ゆったりした気持ちにもなれ、思ったほど「困った・大変」という気持ちがなかった。
主人が一家の柱として一生懸命動いてくれ、頼もしく大きく感じられた。これから家のローン等、大変だけど皆でがんばれば何とかなるだろうと、あまり悲壮感を持たないでいられる。

磐の上に家を建てる大切さ。

思ってもいない人からも助けがあり、うれしく思いました。人間の小さな事、自然の大きな事、地震の予知は出来ないのか、そればかり考えています。普段の生活を着実につみ上げていくことが、いざという時、人間関係をスムーズにするように思った。㈱神戸市の中に安穏とくらしていて天譴がありました。行政も私達一人一人も安全・安心は当たり前で通りすぎて、便利・速い・オシャレの町にうもれきっていたのでは、と思います。普段自分のことで走りまわっていて、まわりの人々とは通りすぎて生活していましたが、地域の人々との交わりも大切にしないといけないと地震から反省させられています。市民病院が本土にないのは問題と思いました。
六甲山をけずり、人工島をつくり、自然をドンドン破壊しました。その事と地震とは関係ないのでしょうか。開発に謙虚な姿勢をもたなければいけないと思いました。全国の電気・ガス・水道の方々が復旧のために労して下さいました。
今もなお、マンションからみえるＪＲの陥没場所では24時間光々と電気をつけ作業をしておられます。本当に有難いことです。全国の皆様が神戸をたすけて下さいました。私達も自立して人の恩も忘れずに復興していきたいものです。

人の生命、ものの生命をわずか数秒の地震でこんなに簡単になくなるのかと思った。これからは多くのものを持たず、大きな災害にあっても、片付けもなるべく簡単になるように、ものをもっていこうと思う。われてしまって、これから準備しないといけない食器もなんでもあればいいなという気持ちと、やっぱり自分の好みのものを持ちたいという気持ちが交錯する。なんでもいいと思うと、なんかもうどうでもいいというような投げやりな気持ちになってしまう。でもこだわると、又、ものを多くもってしまうような気がする。今、自分の中でいろいろ複雑です。

身近で大勢の方々が亡くなられたというのに、わがことに追われた日々を苦い思いでふりかえっています。

・人力では止めることの出来ない自然の偉大さ。
・最寄りの人達が、一人住まいの私を案じて訪ねてくださった。友の会会員の幸せを感じた。
・地震の日の朝、近隣の人が大丈夫かと声をかけて下さった。お互いに声をかけ合い、有事の際の人情の温かさがわかった。

人とのつながりの大切さを感じました。（友の会、親戚、近所）
世界各地の難民の方々の事を思うと、大きな被害をうけたのですが、沢山の手がさしのべられた我々はまだまだ幸せなのだと思う。

関西は災害のない所という誤った先入観が、被災を大きくしたと思う。いかに無防備だったか、と反省させられる。出来る予防はしておきたい。ご近所と声をかけあう大切さを思った。

①家の中に不必要なものが多くありすぎた事に気がつきました。
②住まいを失ってはじめて、家を粗末にしていた事に気がつきました。感謝を忘れていたと。
③友の会の方々や近所の方達、知人、友人、親類の方々とずい分と多くの方が、心配していて下さり、暖かいはげましや、数々の援助をいただき、いい方々にかこまれていた事をしみじみと有難く、この感謝の気持ちを毎日の生活を通して社会にお返し出来るよう、がんばりたいと思っています。

沢山の方に助けていただきました。友の会からの、ぞうきん・使い捨て布・洗った野菜は助かりました。

天災の恐ろしさ、地震はこわかった。余震の続くなかで、主人は会社に出勤、両親をかかえ不安に過ごしていたが、会員の人々にいろいろ声をかけていただき、ホッとした気持ちになりました。ありがとうございます。

中央部、学園、近隣友の会からの援助に感謝しています。被害も少なかったのにお言葉に甘え、色々なお心遣いいただき有り難うございました。
男子部生徒さんからの水の配給 180ℓは大助かりしました。団体の力強さを感じました。友の会会報で神戸の会員の働き・活躍の記事を見て何もお手伝いできないで、申し訳なく思っています。

スリムに暮らす。
人の心がよくわかった。

とても恐ろしい体験をしたわけですが、家族が不安の中、一つになる事が出来ました。一週間位は家族中で、水くみなどした訳ですが、父親が会社に出た後、水くみは女性・子供・老人の仕事でした。余震でこわい中、家族いっしょで協力できた事がよかった。今は身近で、友人の心のケアやお話を聞くこと。

・近所の人、友の会の友人、共に不自由を分かち合えたことを何より心強く感じた。
・本当の意味での、わが家に合った「シンプルライフ」を考え直したいと思っている。

被害の多かった、大きかった地域ほど、結束がかたく、心が豊かに洗練されているように思います。わが家の主婦である私の役割も少し見えたように思います。家族が友の会のめざす、豊かな洗練された城になって、地域へ広がっていくのが理想なんだと思います。

人の協力の偉大さと親切が身にしみた。
普段の生活の中で、防災を意識し、実行する生活に変えてゆきたい。

人と人とのつながりの大切さ。（家族、親類、ご近所の人々、友達など）
シンプルライフ
震災に対してあまりにも無防備だった。

人のやさしさが身にしみた。（近隣とのかかわりがとても大切と感じた）
シンプルライフが大切とつくづく思った。

人とのつながりを大切に感じた。今まで挨拶を交わすことぐらいしかしなかった近所の人々とも情報を交換したり、いたわり合ったり、物資を分けたりなど、たがいに同じ立場に立って、優しく交わることができたのは嬉しい経験だった。
地震から一時間ほどして最寄の人が「大丈夫？」と車で国道２号線まで出向いてきて情報を持って訪れた時は嬉しかった。
また、友の家に届けられた下着・コンロ・軍手など、いろいろの救援物資を車に積んで被災された方々を訪問した際、どの方からもまず「私などが頂いていいのですか、もっと大変な方々に差し上げてください。」との声がきかれ、自分が被災していても、他を思いやる優しさを感じた。信号が消えた道路を車で走る時の、ゆずり合いも大変な感動だった。このような時、「なにかをしなければ」「何かしたい」と思う。「何ができるか」「何をしたらいいのか」と考える。友の会の救援活動に参加させて頂くことができて幸いであった。

いつ、何が起こるかわからない、と痛感。日々整理整頓、物の少ないシンプルな生活がベストと思った。
沢山の友達が本当に心配してくれていた事にビックリ。こんなにも深い付き合いが出来る様になっていた自分に気付かされ、おどろきと同時にうれしかったです。

## 灘 方 面

人の優しさ暖かさを知りました。北区の方から二日目におにぎりに色々なおかずを添えて車で届けて下さった夫の元部下の方、甥が頼んでくれた近くの方が温かいシチューを届けて下さったりと思いがけない方々のお世話になりました。罹災者同士本当に暖かい心で言葉をかけ合える反面、亡くなられた方達の遺族の心の痛みは、どんなにしても私に分かる筈もなく安易に痛みが分かるなどと口にするまいと思いました。人の心はどこかで結びあっているけれど、どこかは平行線なんだと思います。人の心の中の卑しさも又前に出てきて、人間て様々だと思いました。本当に人間の心の優しさが分かるのはこれからだと思います。

水の用意をする事、火の用心をする事、その外、必要な物の置き場所を決めておく事。

奥尻島の全壊者には一軒当たり約1000万円の見舞金が出たと聞いています。全壊で死者の出ている様なところも一件一人義援金10万円というのは行政の施策として、あまりにも貧困だと思います。

被災された方の事を常に心にとめて生活していきたい。

近所との連帯感が出来た事、ボランティアの人はどの人も優しい、又、安否を気使って直後に訪ねて下さった友の会の宇山さん、平田さんを始め、柏田さん、高山さん、笑顔のプレゼント頂いた時は吃驚するやら嬉しいやら、羽仁先生の教えの答？　リーダーの方々はすごいなあと、ただ頭の下がる思いでした。頂いた物で有難かったのは、使い捨てカイロと肌着、ソックス（毎日洗い替えがいるので）。

棚の上になるべく物を置かない（整理をよくする）、開き戸は一応止めるようにしたが、今回のような地震では無駄と思うが、貴重品を一纏めにして番号等別に控えて置くとよいと思った。

私は一応一人暮らしでしたが、同居３世帯で雑居生活、夫々の友からの友情、家族の団結、孫との交わりの中での私、と今迄にない心豊かなものを頂きました。

電気が当日（１／17）の２時すぎにつき、電気器具に助けられた。今後の生活に上手に取り入れていく良い機会だった。
簡素にスリムにという生活を体験、寝室は何も置いて居なかったので夫も助かる。夫の部屋はドアが開かず困った。持ち物を整理する事が一番である。
行政面でも個人でも、自然の大きい力を考えずに生活してきた。常備しておく物をしっかりと確認し、今後の生活に活かしたい。

シンプルライフの早期実行。

天災に対しては人間は無力だと思いました。我々としては出来るだけ地震に対する予防をしても（倒れないようとか）、それ以上どうする事も出来ません。じたばたしても始まらないと言う事です。

電気用具が色々あると便利だと思った。（電気が早く回復するので）
神戸で災害があれば他の都市が直ぐ機能する様なシステムが必要かと思う。（新聞等によれば要請が無いから動けなかった）
避難所には水、食料、トイレは常備、常設出来てないのは意味がない。

今迄、経験した事の無い大きな地震でしたが、方面の方が早速見に来てくださり、お見舞いまで頂き感謝です。自由学園の方、共働学舎の方達の暖かいご援助、友の会の力強さを感じました。今まで遠くにいた方達のご親切や励まし、改めて身近に感じました。

持ち過ぎない、道具や着物、食べ物等だけでなく、多忙にすぎたあらゆる社会的な諸関係も、あの日一日は空白になって、可笑しい程澄んだ気持ちになりました。家族全員が無事でいられる幸せをかみしめ、与えられているものだけで工夫すれば、却って充実した生活が出来たとの思いです。不思議な感動的な思いでもありました。

わが家は古家なのに、この程度ですんだので他がこれほどの惨事になっているとは思わなかった。地震の怖さ、避難所生活等人から聞くだけではわからない。体験しないとわからないと実感した。街の人達が、大変心優しくなっている。でも、だんだん元の生活に戻り始めて、人も変わっていくのかと思うと淋しいとも思う。

四軒の親族（神戸市内在住）に死傷が無かった事に感謝しています。また地域により被害が多少しているので、軽微な所の住人は『他』を頼りにせず、自分達の手で一日も早く通常の生活（特に消費生活）に戻り、経済復興の一助にした方が良いと思う。『美しい神戸』が再び見られる事を願っています。

本当に今は何もいらないと思っています。この地震によって身内の有難さと、お友達の優しさに感動しました。

近所の人達と力を合わせて生活出来、心強かった。どんなことがあっても家族の健康を守ろうと思った。

命の大切さを知る。又、物質本位の生活に反省。

被害が少なく助かったからには、お役にたてる事を考えないといけなかったのに、安穏と実家で暮らさせて頂きました。ごめんなさい。

身近な者が皆無事であった事が本当に幸せな事だと思いつつ、少しずつ贅沢になってきてしまった、国内外を問わず心配をして連絡下さった方がとても暖かく感じられた。

近所とのコミニケーションが暖かく増えてきた事、入会して間もない私にも安否を問いかけて頂いた事は有難い事でした。

都会生活は近隣とのつき合いが薄いと思っていたが、今度の事で近所つき合いが親密になったし、井戸のある家からお水を頂いて大助かり、有難いと思った。これから何事か有る時は心易く助け合いたいと心強く生活出来るようになった。不時に対しての準備と備えをして置く事。

食器棚が観音開きだったので殆ど下に落ちました。今は紐で開かないように縛って居ります。貴重品と着替えをリュックに入れ、枕元に置いて居りますが、地震保険や家具を固定させる事も考えて居ます。又、飲料水と食料も２～３日は常に用意して置きたいと思って居ります。

1．まず家具の配置を変える事
2．常に水と一日～二日分の食料（簡単に食べられるもの、常温の牛乳、ジュース等）
3．オーブントースタ、電熱器、電子レンジは用意しておくと便利でした。

地震に対して何の準備もして居なかった。もし家が倒れたら何を持ち出す事が出来たかと考えるとゾッとする。非常時持ち出しをきちんと用意しなければと思っている。戦争の時の物の無かった体験が活きた。

この度の大きな地震でこの状態で残った事に感謝。多くの方の心の暖かさ、いろいろお見舞いを受け有難く、東京方面から寝袋を持ってかけつけてくれた何人もの人に感謝。雨の心配も無く居られた事をいっぱい有難く思って居ます。

日頃不備な生活をしてきた事を反省すると共に、必要な物は神様の恵みにより備えられている事を感じました。

生活の基盤がこの震災で本当に簡単に崩れる事に驚き、日頃よりの計画性（蓄え）の重要性をつくづく感じる（失職した為）。

行政のあり方、災害の時の被災者の収容施設の事、ほぼ同じ時期に起きたオランダの洪水での用意の良さをテレビで見ました。喉元過ぎれば…ではなく、この度の事をたたき台にして悪しきを善きに活かすようにしてほしいと思った。自分自身もこの体験をこれからの人生に公私共に活かしたいと思った。

姑達と一緒に生活出来て、子供達も思いやりを持って生活出来た事がとても良い経験になった。人間の優しさと浅ましさにも出会い、弱者といわれる老人や幼児にしわ寄せが来ている事に胸が痛んだ。友の会に居たおかげで、元気を貰い、精神的にとても助けて頂いたと感謝しています。

エレベータで挨拶程度の方々とより親しくなり、連帯感が出来ましたし、まったく無防備な生活でしたので、防災の事を考えなければと思います。物に対する価値観が少し変わり、あまり持ち過ぎない様にと思います。

## 神有方面

家族が一緒に住んでいることの大切さ。
人生には思わぬ落とし穴がある。一日一日を大切にしていきたい。
東京にいた頃、小学生だった子供達は、地震の時の避難訓練や、緊急時の引き取り訓練（親も参加）など、一学期に一回はしていた。また防災ずきんを座布団に仕立てて、学校に持っていっていた。このように小さいうちから、地震に対する心構えを学校ぐるみ、地域ぐるみで考えていかなくてはならないと思う。関西は、あまりにも無防備だったと思う。

恐怖という未知の体験。

隣近所のつき合いや人間関係の大切さ。

改めて、人と人との助け合いの重要さを感じた。

自然の力に対して、人間の力は及ばないと痛感した。
これから物にとらわれない簡素な生活にしたいと思う。
生かされた命を大事にして生きていきたい。

物を多く持たない。
子供達の行動を見ていると、成長したなあと感じた。（子供に多く助けられた）

地震に関しての不安、恐怖などは当時よりも一ヵ月後の方が、大きいと思う。

非常持ち出し袋を作ろうと思った。

自然の力の偉大さ。又、人が自然を破壊している事により、災害をより大きくしている（人災と呼べる部合いが大きい）。持ち物は本当に必要なごく僅かの物だけでよい。神戸の人は今まで表面的な所（服装）には気を使うが、人情は良くなかったが、震災を経験して、暖かい人情が生まれたと思う。それはとても良い震災による影響であると思う。ボランティアの人たちが多く出て、まだまだ人の気持ちの暖かさは失われていないと思った。

災害は忘れた頃にやってくるということを実感。地震、雷、火事、親父の言い伝えがよく分かりました。
友の会、自由学園、婦人之友社が、ボランティアで働いた底力に驚かされました。
そして、自分がその一員として、微力ながら一緒に働いた事に喜びを感じました。

非常持ち出し袋／用品の用意をしておくこと。

あれこれ思っても、揺れているときは何も出来ないと言うこと。

友の会、学園、友社の結束の確かさ！！
近所の人の親切、優しさに改めて感謝した。多くの犠牲者に対し申し訳なさを感じる。なにかをしなくてはと焦りにも似た気持ちがあるが、落ちつかない。今自分に出来ることを真剣に考えたい。年齢的に動けないもどかしさを感じる。

# 鈴蘭台方面

一人暮らしの母の近所の方達が、母に良くしてくださったことに感謝しています。他県に住む友人からお見舞いの電話や手紙をたくさんもらって本当にうれしく思いました。　「なんぢら己がために財宝を地に積むな」

ラジオ、懐中電灯、カンパン、水等用意しておく。

・普段から貴重品、懐中電灯など枕元におくのは普通だが、靴などはき物、靴下をそろえておく事が大切と思った。
・昼間の震災はすぐにガス、電気他元栓を必ず忘れないようにと。
・又、となり近所のつき合いの大切さを思った。

永年ご無沙汰している方から慰問があり、本当に有難かった。
我が家は殆ど被害がなくてあまり参考にならないと思うが、水タンク、食料などあわてて買いに走ることはなかった。戦争半ばに物が無くて困ったことから、ある程度のストックがある（あり過ぎる）ので、もし倒れていたら大損でしょう。もう少し物を整理したい。しかし鍋でご飯を炊いていた事、歩く努力をしていた事が役立った事を思うと、毎日の生活の大切さを思う。被災者の方々には精神的なケアーが必要ないか、よく話を聞いてあげて本当にその方に必要な事や物を一緒に考えていく事など、罹災しなかった事を感謝して出来るだけお役に立ちたい。

一瞬にしてなにもかもを無くしてしまう可能性があるという前提のもと、今までの価値観を変えなくてはと思う。モノをも求めカタチあるものにこだわる生活をやめる。財産の一切を失っても、残った身体に再生の光を照らしうるだけの精神を育てるよう、一日一日が心の充足した幸せな日々でなくてはならない。万が一、突然死ぬようなことになっても、少なくともその前日（直前）までは、健やかな明るい心で気持ち良い生活が送れるよう全てに心掛けたい。

「一日の苦労は一日で足れり」の気持ちで心の上でも実生活にもけじめをつけて新しい明日を頂きたいと思えるようになった。

・防災のための準備をもっとしておかなければと思った。（水）
・ボランティアとして若い人達や友の会が素早く動いたことに驚きと敬意の気持ちを持ちました。
・遠方の親類や友人が心配して電話をかけてくれて嬉しかった。ただ、自分の方から無事であるという電話をすれば良かったと思いました。

・遠くの兄弟姉妹のありがたさ
・遠くの友人からの暖かい気持ち

本当に困っている時（自分も他者も）に、助けてくれる人がいたことを大変うれしく思う。と、同時に、人格を疑いたくなるような人もいた。こんな時、本当の姿が見れると、またも実感することができた。

・いざという時のために用意していてもあの暗闇、あのすごい揺れでは置いていた場所になく、マッチとライターでさがしてやっと見つけた。備えあれば憂いなしとはいかないことを体験した。
・実際に被害にあった人と何の被害にもあわなかった人とが、今度のようにせまい地域に混ざり合っていた時、思うこと、発言すること、行動することに格差が大きすぎて、被害の大きかった者にとっては大変心が傷つくことがあり、本当に悲しみ、つらさなどわかってもらえないとしみじみ思った。
・何もかも人間が考えることなど、たかが知れている。本当につらい、悲しい時は涙も出ない。

ボランティア活動に関して、組織だった全国規模の団体（友の会、ＹＭＣＡ、ＹＷＣＡ等）の活動の迅速さと的確さに感心しました。

着替えを枕元に置いて寝ることや、ヤカン一杯の水を寝る前に汲んでおくことなど、昔母がしていたことをやっていればよかったと思った。電灯もいつも枕元においていたことなども思い出したりした。そして、自分がいかに頼りない、自立していない人間かよ～くわかった。自分の身ひとつ守れなかったのだから、母として子供をかばうことなど出来なかった。もっと“どすこい”としっかり地に足をつけた母にならなくては！と思っている。

人間の強さ、優しさを心から感じ、悲しいこと、苦しいことの多い中、人間の温かさもたくさん感じられ救われます。多くの物を失った今、本当に大切な物は何なのか…友の会の言う“自由・協力・愛　適量の暮らし”実感しています。

けがもなかったのに自分で思っている以上に身体にショックがあり、透析中も大変でした。血圧の上下がひどく、車も不通でどこも行けず、ウソの様な状態で自分でもおかしいと思っていましたが、オーストラリアの心理療法の方がいらして災害後の極めて正常な生理的反応なので自分で早くそのことを自覚し、ひとりで考えこむ程回復が遅くなるという講演とグループ制のコミュニケーションをして頂き、皆ほっとしたことでした。大丈夫という人ほどストレスが出来るとのことでした。心の傷は無意識下に起こることを教えられました。

一瞬にして5000人以上の人の命がなくなり、築いてきた財宝を失われたということから「天に宝をたくわえる」という事や、「今、自分は生かされている」ということを実感した。また友の会を通して学んできたこと、生活勉強の大切さを思いました。

最近あまりにぜいたくになってきたりと、教訓のためかなと思っております。

家が一部損傷したり、主人が神戸市の職員なので忙しかったり、子供の受験があったりと自分のことで精一杯で被災された方々に強く心が動かず、他人に対する愛の足りなさを痛感しました。

・家具の配置を考える。
・100年に1度の大震災を体験し、災害対策を（備蓄）しっかり行政は考えてほしい。
・友の会、自由学園、友社のすばやい働きかけ（対応）に感心致しました。この働きは心にとめておかなければと思いました。

避難所の方々を訪問する度に一瞬にして丸裸になった方々の為、自分の身をけずってでも現金をお送りしたく、実行中です。

長田区に住んでいた母の家が全壊。わが家はほとんど被害がなかったため、なかなか当事者の気持ちがそのまま感じられず、つい傷つけることも多かった。
シンプルライフをめざす友の会の生き方をおしつけることも出来ず、母の思いを大切にしながら新しい生活がはじめられるよう努力したいと思っている。

非常時にこそ、人間の本質が出ると思いました。友の会の方々の活動に感動いたしました。

・片付けをよくしておくこと。
・置き場所を皆がよく解っていること。
・庭に雨水をためられるようにしておくとよい。
・寝る部屋には物を置かない。
・お風呂に水をためておく。ヤカンにも水を入れておく。

・預貯金、保険証書等の番号などはっきりと書き出しておく。
・下着等、予備を補充しておく。
・食料を1週間分くらいは心掛けてたくわえる。
・現金を手許に持っておく。
・電気、ガス、水がとまっても困らないよう代替のものを心掛けておく。
・後は行政でこの震災を教訓に対策を検討しマニュアルを確立してほしい。

人の造るもののはかなさと天災のすごさを十分感じた。会員同士の暖かい心も感じた。友の会に入っていて良かったと思った。家を失くしたり物を失くしたり、又尊い生命までもなくしてしまったが、人は一人では生きて行けないことを体験できた。“自由・協力・愛”これをいたるところで感じることが出来た。私一人の力はささやかでもこれを友の会という団体を通してささやかなボランティアが出来たと思う。婦人之友社、自由学園の団体が協力した働きに感動する。方面の人達の優しい心と協力にも感動した。

個人の力も大切です。組織の力もすばらしいです。でも一番最後に残る弱者を救えるのは政治力です。最後まで立ち上がれない人を、はやく国の力で何とかしてあげて下さいという思いで一杯です。
友の会のこの震災での働きのたしかさ、この中で1日だけでも働ける機会を与えていただいて本当に感謝しております。

北区は比較的被害が少なかったので恵まれていたと感謝しています。長田区や東灘区のお友達の話を聞くと大変な被害を受けていることを知り、また婦人之友にのっていた体験談を読み、本当に地域によって被害の違いに驚き、涙がでてきました。東灘のお友達、地震なんかに負けないよと前向きな姿勢で頑張っている姿に、ただ頭がさがる思いです。
神戸友の会の方々もボランティアで頑張っていらっしゃって、自分の家はさておいて人のためにという姿勢を見習っていきたいと思います。

考えもしなかった事がおきて、何も備えていなかった事を反省。もっと家族で話し合っておくべきだし、子供に対して生活力というか、少し不潔な事にもがまんできる様にさせておかなくてはと思った。一ヵ月もたつとだんだん意識が薄れかけてしまいそう。

神戸に震災はないと思って居たので、人生には何が起こるのかいつもそれなりの覚悟を必要とするのだと思っている。

我が家は幸いな事にたいした被害もなく普通の生活をしておりますが、被災している人達にどうしてあげれるか、何かお手伝い出来るか、心で思っていてもなかなか実行にうつす事が出来ない自分の無力さを感じました。色々な人の心が少し見えたような気がします。

・こんな恐ろしい体験は一生に一度で十分でした。
・友の会の助け合いには感激した。炊きだし等の場を作って頂きありがたかった。
（被災してない者にとってじっとして居れなく、働き方、場所が判らない）

・飲み水の確保
・食料品のストック（１週間分）
・非常持ち出しを１つの袋にまとめておく。
・非常食（スグ食べられる）を常備しておく。

・必要書類をまとめて置くこと。
・外出の用意がすぐに出来る様にまとめる。

人と人のつながり　いかに大切かという事。

人と人との心のぬくもり、やさしさ、いつもの時とちがう人の力、人の和を感じました。

主人の母（一人暮らし）が自治会ボランティアの方々、そしてお友達に助けていただき元気を取り戻しました。又、先日は友の会よりお布団を頂戴しました。有り難うございました。
皆さまにお力をいただき有難く思っています。

・主人の会社や知人、関係者の付き合いの広さ。日頃、主人が平日休みでも、友の会に私が元気で出て来れたことを改めて感謝しました。ペットの里親で、元気になったワンちゃん一匹ふえた。
・神戸友の会の広範囲の会員、大変な中にもそれぞれの立場でなぐさめとはげましが多くあったこと。
・防災についての話し合い、訓練は家でも外でもなかったので適量を考えることに必要性を感じた。
・友の会が婦人之友社、自由学園、各地の友の会の多くの助けでなっていること。困っているところに友情の手がさしのべられている実感。

身の回りをきちんとしておくことの大切さ。衣類ひとそろえと必要な食料品を一つにまとめて、すぐ持って出られるよう準備しておくこと。水の用意。靴（はきもの）を揃えておくこと（ガラスやくぎ等があるので、はきものが大切なことを聞きました。）笛を持っておくこと。布団をかぶって身を守ることも一つの方法だと思いました。

地震のことなど神戸にくるとは思ってなかった。当分の間、少しの余震にも敏感になっている。失ったものも大きかったが、たくさんのいただきものもあった。中央部はじめ各地友の会、婦人之友、自由学園の働きにあらためて感謝とすばらしさに頭の下がる思いです。

母が横浜で関東大震災にあっているのですが、その頃のことなど全然聞いていなかった上にこのようなことは想像だにしておりませんでしたので、ただただびっくりしました。今まで他所の地震など被災した方々を本当の意味で自分のことのように思っていたでしょうか。助け合おうとしていたでしょうか。たくさんの友人、知人からの暖かい心づかいをいっぱいいただいてうれしさと恥ずかしさが交錯しています。日頃、我が家では近所と家族ぐるみでのお付き合いがあったこがとてもよかった。もっともっと地域社会との交わりを深める必要を感じました。また主人の会社や娘の会社など企業がすぐ実態調査書でくわしく調べてくれ、早くあたたかな対応をしてくれたことにはとても感心しました。
留学生（アメリカ人）をしばらく家でお預かりしましたが、学校や市の対応は冷たく

申し訳ない思いがしました。亡くなった方、家をなくされた方々のことを思うと本当に悲しくなります。又、1人暮らしの老人の方の今後もとても気になっています。

## 長田方面

婦人之友、自由学園、全国友の会の三団体の力強さに驚きました。たくさんの人が同時に大なり小なり被害を受けた事で、助け合い、ともに語り、また被災していない方々が助けようと手をさしのべて下さる事、外国からも援助の手が差し出された事、国会にも災害対策本部が出来、知識人の言葉や力が出て、情報の力も発揮出来ている事などにより、自分一人ではないという事で絶望感が少なく、希望がもてる事、元気が出る事、それが早い時期に立ち直っていける大きな力となったと思います。が、希望を持つ事が出来ない人を支えてあげる事が大事と思います。

今まであまり付き合いのなかった隣近所の人たちと、それぞれの家で余っている物を交換したり、助け合う事になった。これからの生活が心が豊かになりそうに思う。

細々ながら友の会で学んだ事が実によく役に立ちました。1月18日、ガスボンベを使って一升のお米を炊いて近所の方と食べられた時、本当に小さな事ですが、鍋でごはんを炊く事を学んでいてよかった！と実感。交際ノート、財産ノート、交友ノート等を少しずつですが作っていて本当に安心出来ました。友の会のパワーを心強く思いました。多くの方のお助けがあった事に感謝します。

近所の方々が多く亡くなられました事を考えると、住居は改築の時はお金を充分に使って基礎をしっかりとすること、アルミサッシよりも木造の引き戸が良い事、今回は思いました。七年毎の手入れの事もその理由がよく解りました。

近隣の人たちといたわり合って過ごしたことで一体感がうまれ、急速に親しくなれました。今でも声を掛け合ったり助け合ったりしています。

まず自分が大丈夫だった時、すぐ他人の事を思いやる事が出来た事。自分の家の片付けは後回しにして、家族全員手分けしてそれぞれ心配な知人、友人のところに安否を確かめに回りました。友の会からの救援の有り難かった事を心の糧にして、友の会をもっと学んでいきたいと思っています。

昨年12月に入会さして頂いたのですが、何もボランティア活動も出来ず申し訳なく思っています。友の会からいろいろの心のこもったお見舞いまで沢山頂き、本当に有り難うございました。知人にもお布団一組手をさしのべてもらいました。これから少しずつ勉強していきたいと思っています。よろしくご指導お願い申しあげます。

私は関東地方の出身ですので、神戸の人が絶対大丈夫と言われるのを不思議な思いで聞いていました。この度の大きな地震にあい緊急時の、医療、食料、住宅等のもろさを見たり聞いたりし、自分のこととして考えさせられる事が多々ありました。

全く地震に対して無防備であった。ケガもせず、みんなが無事であった事を本当に幸いと思えた。友の会と手を取り合って、つながりがある事がとても心丈夫に思え、会員であってよかったとうれしく思えた。非常事態が起こった時、その人がどのような態度をとるか、いつも読書で高められるようにと願っていた事があらわれるのだと痛感しました。自由学園と友社と友の会の３つの団体が協力しあうと、このような大きな力になるのかととても嬉しく思えました。

本当にいろいろな人からの助けをかりて、なんとかこれまでこられました。特に友の会の方々からは、今必要の品をすぐ届けていただく等、本当に有り難く感謝しております。この度は友の会の力を感じています。

友の会でいろんな事を学んでいながら、大変無防備であった事を反省しています。
常日頃から物を大切にし、何でもすぐに買い換えたり、捨てたりしない生活を心がけていましたが、いっそう物を大切にする事、感謝する事を痛切に感じました。又、世

の中がいかに贅沢になっているか、シンプルな生活を辛抱できなくなっているか。テレビを見ていて、その中の会話がなんとふわふわと軽いものの多い事か苛立たしくなるほどです。いじめの問題もこんな世の中に原因があるのではと思いながら・・・。こんな時こそ自分の事ばかりでなく強い心を持って、大きな視点から物事を見て、考えたいと思いました。

幸運に恵まれて無事生き延びることが出来て感謝の限りでございます。毎日テレビばかり見て泣いてばかりいました。50日経って漸く涙が止まりました。これから元気を出したいと思います。神戸の家も住めるよう修理だいたいできましたので近く帰りたいと思っています。

人の心の暖かさを感じます。沢山の人に助けていただいたことを本当にうれしく思います。同じ立場に立ったら自分も出来たかなと思います。本当に感謝しています。

人の親切、家族の絆、普段は余り感じなかった甥、姪の力強さ。私達の時代は過ぎて、次の代に移った事を痛感させられた。余分の物を持たなくても生活出来る、殊に病院生活をしているので置き場所もないので、それと暖房がきいているので最低の持ち物でよく、スモックが役に立つ。今までの生活は（震災前）、毎日入浴、毎日肌着の取り替え、三日に一回洗髪、毎日洗濯、今は週に一回入浴、肌着もその時取り替え、洗髪も一週に一回、タオル類は毎日洗濯、避難生活の続きもあり慣らされてしまった。今まで私達は贅沢すぎた。厳しすぎる体験ですが、何とかのりこえて神に喜んでもらえるよう生活したい。

棚の上、食器棚、タンスの上等なるべく重い物を置かない。テレビも、下におろしたい。

他人の暖かみを感じました。
色々　物資を有り難うございました。

近所の方、息子たち、子供は親を思っていてくれる。ご近所はやはり安否をお互いに感じあっていた。思いやりの深さを知る。友の会、方面リーダー、最寄りとお互いが同志であることを確認。ありがたく思った。

寝室には家具など出来るだけ物を置かないようにしたい。各部屋の家具の固定をする。非常袋の用意、金庫の再考、（人の心）

私が普段、当然と思っていた生活が、どんなに幸運であったかを思い知った。
人々の協力、助け合う力。

震災後、家が倒壊した親戚計12人が我が家に避難していたが、どんな状態にあっても友の会で学んだ色々な事を基に考えていけたのは、本当に有り難かった。
今まで経験した事のない事、例えば解体業者、市、区役所、弁護士との交渉等、とても大変だったが新鮮な体験だったと思っている。法律や規則でなし最後は人間性の問題だと痛感した。
経験した事が少しでも皆のお役に立つようにと、祈るばかりです。

友の会員で良かったとつくづく思いました。電話が通じるようになってから続々と電話がかかり、多くの友人に支えられている自分の幸せを感じました。又、友社、自由学園、友の会の３団体の協力体制のすごい力を知らされました。「人、一人おるは良からず」を知った震災でした。自分達のことばかり考えていた期間は終わりました。これからは嬉しかったことを、まわりの人へお返しする時が来たと感じています。
３団体からの援助や、神戸の会員の方が訪ねて来て下さって、元気づけて下さった事は本当に感謝しています。

油のお皿等いつもボロ布で拭いて洗っていた。ペットボトルのお水をいつも１ダース買っていた。お米、干しうどん等をいつも常備していたので大変助かり慌てなくて良かった。

数多くの友人、知人に助けて頂きました。家族が助け合って力を合わせて、困難な時期を乗り越えられたと思っております。

天災の怖さを身にしみました。この時は何が起こったのか分かりませんでしたが、テレビを見て予想外の被害だったのでびっくりしました。だんだん落ちついてきて町の中に出ることも多くなり、これが日中だったらどうなっただろうと思うとゾッとします。

この夜程、人の心の温かさにふれて嬉しく思った事はありません。日頃の御近所との付き合い方が、もろに出てその大切さをつくづく思いました。お水を下さったり（夜々、遠い所から自家用車で運んで下さったり、容器を下さったり、運んで下さったり）又、食料品（カン詰めでなく、お肉とか、お漬物とか）友の会（自由学園の方々）の方々が、本当によくして下さり、頂き物も沢山して下さり、日頃活躍してないのに、それに災害もそんなにひどくないのに、嬉しく、その反面恐縮しています。本当に色々有り難う。

天災は忘れた頃にやって来る、まさにその通りで、遠くの親戚を頼る事よりも、近所とのお付き合いの大切さを感じました。普段の家族の会話に天災、又、人災の時どうするか、又連絡はどうするか等話をするべき、又、水、ガス、電気等、あって当たり前の事、その他交通の便等も当たり前の事の大事さを感じ、普段から一ヵ月に一度でも我が家に取り入れて、生活してみようと思いましたが、水だけは…とても？その為、水はいつも用意しておく大事さを感じました。

水道、ガスのない生活が続き、（家族が増えて不規則になりがちだったが）又友の会や生活団で学んだ知識（幼児の４回食の基本や生活時間のこと、又忘れていたこと、洗濯の時脱水槽に少しお湯を入れて回すことで汚れ落ちが違ったこと、寝る前の十ヶ条で明日の用意、戸締り等、こんな時こそ本当に役立つんだなと思い、感謝することが出来た。実家の父が生き埋めになり、命の尊さを今まで以上思い、生きていく意味を考えさせられた。

# 須磨方面

被災された方に対して申し訳ない位何もなかったので、毎月、何気なく差し出している公共費が、こんな大きな災害に対して義援金としてお役に立てて頂いた事で、羽仁先生の、公益の為に金を出す、と言う事を判らせて頂きました。

思っているだけではダメで、実際に行動に移さなくてはいけないということがよくわかった。人間の良い面や、悪い面をかいま見たように思う。

1．日常生活になんと不用のものが多いことか。一粒選りの生活をしなくては！
2．弱い立場の人が一番辛い思いをしていること。そしてその声が公の人には聞こえない（聞かない）こと。

家族の大切さ。家の中にいかに不用の物が多いかがよくわかりました。これからはこの事を教訓に、すっきりとした生活をしようと決めました。物に対する考え方が違ったように思います。

・今まで見えなかった色々な事が見えるようになった。
・あまり話をしたことの無い人たちとも、心と心が通い合うことをわからせられた。
・毎年1月17日午前5時46分を命あるかぎり忘れることなく後々まで伝えていきたい。
・過去を振り返るのはあまりよくないが、過去を忘れてはならないと実感した。
・これからも、私の出来ることで少しでもお手伝いをして行きたい。

主人が短期間ではありますが海外出張で留守だったので何かと不安でしたが、近所の人と助け合いながらのりきれたので感謝しています。
このたび改めて、自分が弱い人間だと再確認した思いです。心のあり方が、しっかりしているか否かで、同じ困難にぶちあたった時でものり越え方が違うということです。それがわかりながら、しっかりできない自分が情けないです。

大人２人の生活で動き易い事は、おそれを知らない事でもあると思った。平素から水の用意を心がけておき乍ら、今回はそれを失敗して水のない（準備の）事を後悔した。水道が通ってから、毎日４人の人の入浴サービスをしてあげられた事を幸せだと思っている。

・持数少なく、すっきりと生活したい。
・人のあたたかさ、優しさに感激、「一人の小さな手、何も出来ないけど、皆んなの手と手を合わせれば何か出来る」の歌を思いました。
・復興には長い時間がかかり、これからが大変と思う、気づいたことをすぐ実行したいと思う。今はパジャマ作り、手紙を書くこと、話を聞くこと。

・生きているという事は、家で温かいお汁をのむこと
　　毎日美しいものに出会うこと
　　体をのばしてゆっくり家でお風呂に入ること
　　水の出る音をきくこと
・団体の中の一人であることのありがたさ

幸いに家屋の倒壊がなかったので非常持出しも準備することが出来たが、大切な書類、通帳、現金等一括しておくこと。断水が２週間近く続いたので水の大切さと共に、最寄りの人、友の会の車のある人が水を運んで下さり、協力の輪がすぐ実行にうつして下さって感謝している。
全国の方から被災地に援助の手をさしのべて下さったこと、友の会・自由学園の若い方達のボランティアの手早いご奉仕に感謝しています。

10日間断水が続き大変な思いをしましたが、給水車からの水運び、そして貴重な水を大切に使うこと等、家族皆が心を１つにして力を合わせた生活が出来たことに喜びを感じた。又、実家への応援、妹の家族への調理品の援助、方面の炊きだしへの協力、友の家での長男・長女のお手伝い等、良いことへの参与をが出来たことに感謝です。友の会の３団体の組織力・行動力にも驚かされました。

・必要以上の家具などを置かないように。
・この一年、家事クラスに行かせて頂いてたのですが、最後まで授業を受けることができなくて、とても残念でした。

地震についての備えは特にしていなかったので、これを機会に防災対策をしっかりとしていかねばと思った。

・人、物、すべてに対し、謙虚になっている自分に気づいた。（友の会の読書でいつもケンキョということばを聞いたり使っていたが、そんなうわっつらなものではなかった）
・震災後の友の会活動を見たり聞いたり読んだりして、無力な自分と「友の会」とのつながり方を、一生懸命考え続けている。
・断水中、水の出るもよりの方が入れ替わり車で水を届けてくれた時のありがたさは忘れられない。

家具は少なく、家具は低く、家具の上に物を置かない、開き戸より引き戸、押入れの中の物も落ちてくることを計算に入れる。特に玄関のげた箱の上の物は落ちた時に靴がはけなくなることがあるので、ガラス・鏡は置かない。物は少なく暮らす。

神戸市内で我が家ほど恵まれた所はなかったのではないか（直接被害なし）、恵まれた状態に甘んじて居らずに何か出来ることはないかと考えた。
・ライフライン回復後すぐにお風呂サービス（約１ヵ月）
・娘たちと雑巾を縫った。
・おそうざいを近所の忙しい人に配った。
・友の会による長田地区のお弁当炊きだし。

・自然の力の大きさに何もできない。
・電気、水道、ガスのありがたさがつくづくわかった。

家族全員無事であったことを本当にありがたく思いました。三人の子どもの顔を見た時の喜び、不登校している長女のことでいろいろ思い悩みしていたことも、彼女の元気な顔、断水の生活で活き活きと家の中の事をやる姿を見ていると、ふと心が軽くなりました。友の会での救援活動に少しでもかかわれたことは、私自身そのおかげで、だいぶ元気にさせていただいたように思います。

自分自身の被災はほとんどなかったが、支援の炊きだしに行った先のお年寄りの住環境の貧しさに悲しくなった。我々の土地、住居に対する考え方、政府・地方自治体のあり方を変えていく必要があると思う。

沢山の方々から御見舞い、励ましの便りを頂いたことで、自分としてはそんなに地震の被害はなかったけど、とても嬉しく元気付けられました。この気持ちを少しでも被災された方々にお分け出来たらと思い、教会の御奉仕やボランティアにも頑張ることが出来ました。又、全国友の会からの御支援を頂き、一人一人に下さったスモックもとても励みになり、着用して頑張っております。様々な所で人と人との交わりの大切さ、そして暖かさを感じ、今までに得たことのない体験が出来ました。

物の破壊ばかり目がいくが、失ったものの大きさ。これからが問題が大きくなっていくのではと思う。（住宅・失業・ローン返済等）

幸いにも被害が少なくて、ライフラインもわりと早く回復した為、被害の多かった人達の為に多少なり共、お役に立てた事を有難く思っています。

・日頃からの持ち出し準備が全く出来ていなかった。
・寝ている頭の方向に物を置かないこと。
・布団の近くに持ち出す物を置いておくこと。
・日頃の近所づきあいが、いかに大事かを強く感じた。
・お互いに声をかけ合って行動を共にしたり、仕事の分担をする。

人と人とのつながり、思いやり等、物質ではない大切なもののことを、あらためて感じた。

常日頃より社会への働きを経験してきた友の会の、非常時の対応のすばやさを感じました。又、友の会の全国から寄せられた協力の大きさを感じました。改めて友の会のパワーを感じました。

ガスの出ない時にお風呂にいれてくれた友人、遠方からたくさんの電話をもらい、友情を強く感じた。

・シンプルライフを心掛け、必要以上に物を置かない。
・災害に備えての準備の大切さ。
・自然をあなどってはならない。

人の気持ちの冷たさ、暖かさを感じました。お弁当作りをして少しは役にたてた事、喜んでいます。

一瞬の間に大自然の破壊力のものすごさを知らされたという感じです。人間が作り上げたものをみごとにこわす力。予知することができないもの。何も準備していなかったこと（反省）。私達の所は被害も少なく幸いでした。でもマンションの今まで挨拶位しかしなかった人とも声をかけ合いました。日頃からどなたとでも仲良くお付き合いする大切さも知りました。少し人というのが見えたとも思う。一番大きなことは家族が無事であったこと。生かされているということ。命を大切にしていきたいものです。

人間は自然には勝てない。もっと生活の見直しをしたい。災害に備えての準備の大切さ。

明日、生活団が終わりになる時に、建物まで無くなることになりつらいです。水の大切さを身にしみて感じた。

## 垂水方面

非常時のときの自分の身の安全をいかにはかるかの大切さ、ご近所での協力、日頃のコミュニケーションの大切さ、非常用持ち出し品をしっかりまとめておくこと。

価値観が変わった（学歴、地位、財産）。
近隣の人と話をしたり、助け合ったりした。

家具を止めたり、ため水用のタンクを用意したり、防災に対して準備が必要と感じた。

天災はしかたがないが、できる備えは必要だと思った。落ちついて人々が助け合うことが大切だと思った。

生まれて初めての体験で、協力の大切を改めて思った。近隣、友達同士の助け合いで力強さも感じられた。被災のひどい方達に少しでも手助け出来たらと思います。

食料品やガソリン、灯油、日用品などギリギリの生活はしないこと。常に予備があるようにしておきたい。

人の立場を考え思いやる心を持ちたい。一人生活こそお互いに助け合い、落ち込まぬ様、手と頭を有意義に活用した生活が大切である。隣人に助けられ、又自分の出来ることなど積極的にやりたい。例えば食事など作って分け合ったり、情報を伝えたり、相談に耳をかたむけるなど。

シンプルな生活をしたい、その為に自分はどう生きるのかをはっきりつかんでいなければと特に感じた。

人は誰でも、死や哀しみと背中合わせに生きていること、予期せぬことが、いつ起こるかしれないこと、幸せな日々の生活を送れることのありがたさを感じました。
友の会の目指している、ひとつぶよりの生活、シンプルライフの大切さ、食生活の大切さを痛感しました。家の中がごちゃごちゃしてたり、できあいのおそうざいしか食卓に出せないとなると、いざという時本当に困ると思いました。友の会でシンプルな材料から料理ができる方法を身につけさせて頂いたおかげで本当に助かりました（例えば、乾物の有効利用、パン作り etc.）。
人が生きていく上で、なくてはならないものを改めて考えさせられ、余分なものはできるだけ落としていきたいと願わされました。

安全に対してあたりまえと思い何の備えもしていなかった。防災に対して心づもりを少しずつでもしていきたい。

わずか数十秒で、これだけの破壊エネルギーをもつ自然のおそろしさ。しかし、人と人とのまじわり、やさしさ、復興しようとする力強さなど人間のもつエネルギーの大きさにも感心します。弱者がより弱者にならないように、自分のお役にたつことがあれば力を出そうと思うし、友の会中央部からいただいたお見舞金は、もっとたいへんな方々に使っていただきたいと思い義援金としてお出ししました。

普段なら話しもしない見知らぬ人とも言葉をかわし、お互いを気づかう会話が出来たり、小さな事から助けあう気持ちがうまれ協力しあえたこと、人間は本当はやさしさを一杯持っているという事を感じた。地域の交流がしっかり出来ている事も大切だと思った。人との交わりの大切さ、友人の有難さをしみじみ感じ、日頃からのお互いの心づかいをちゃんとしていきたいと思った。自分の生活をふり返り、本当に必要なものを持つ生活、シンプルな生活をして人との交わりを大切に心を豊かに持って生きていきたいと、この度は強く思いました。

まわりの方の暖かい気持ちに慰められ励まされました。私もそのような心遣いをできるようになりたいと思います。

この震災で東灘に居た実妹を圧死で亡くした事、生前の妹とは67才であっても、お姉チャン、ミッチャンと呼び合って、よく電話で話し合っていました。正月のおせち料理の事で話し合ったのが一番長い電話での時間でした。死亡と判ったのは翌朝のことで、案じていたのがハッキリとして、電話器を置いたあとは涙より先に大声で泣いていました。主人の前でしたが、不思議に5分位涙を押さえてあとはスッキリしたとばかり大勢の死亡されたニュースを見聞きして、自分一人だけのかなしみではないと悟りました。交通は不通の折りとて、私は妹に会わずに今日に至りました。余り想い出さない様に、これからの色々の雑用に元気で処してゆこうとおもっています。
中央部われらの公共費よりのお見舞金、スモック等頂戴して本当に有り難くおもっています。

豊かに見える社会が一瞬にして破壊した様を見て、自然の底知れぬエネルギーをまざまざと見せつけられた。人間の生活の営みの空しさをおぼえた。これから何が大切か考える時だと思う。復興への道への遠さを思う。人間関係の大切さ。簡素な生活がよい。

助け合いの重要性を感じた。井戸のある知らない家の人に水をもらったりした。本当の人間性が見れたような気がする。

自然について私達は、あまりにも無知すぎた。全国の皆様からのはげまし、救援物資本当に有難く思っています。

県外の友人、知人よりお見舞いの電話、手紙、心遣い等たくさんいただき本当に嬉しく思いました。反対に私自身何ができるかと考えた場合、ただ怖い怖いとおびえて子供を守ることぐらいしかできない自分がとても情けないと思いました。

いつ何時、何が起こっても後悔しない生き方をしたい、１日１日を大切に、余分なものをなくしてシンプルライフを目指す。

垂水区は被害が少なく、本当に運がよかったとおもいました。まだまだ避難所生活をしている人のことを思うと、胸が痛む。早く仮設住宅にみんなが入れれば良いと思う。

予期していなかったので、本当にびっくりしました。日頃の地震に対して備えがなかったのであわててしまいました。初めて、被災した人達のことを思い、日頃のあたりまえの生活の有難さを感じました。ひとりでは何もできないけど大勢で協力しあっていくことも感じました。

水、電気、ガスのありがたさ。水道のこないときは水を徹底して節約して使った。お風呂に入れることの幸せ。近所のある教会のお風呂提供というありがたさ。親戚、友人、知人が全国から心配の電話、手紙、葉書をくれ、本当にうれしく思いました。中には、すぐ食べられる食品や心づくしの手作りの品物を下さる方もあり、とても勇気づけられた。避難所へ支援に行っているが避難されている方の心労、疲労に対する支援をどうするか。

避難袋を用意して寝ること、明日の着替えも用意、節水のこと、料理のこと等友の会で普段していることがとても役だった。

家があるだけでもありがたいとしみじみと思う。これを機に持ち出せる最小限のものを整理しておく。

地震時、子供が横に寝ていて、とっさに私が子供にかぶさったことでタンスからの落下物での子供の怪我が避けられた。母親が就学前のとっさの判断ができない幼児の傍らにいることの大切さを再認識できた。

・ラジオの情報からＴＶに移り地震の大きさを知る（当日PM３時過ぎ）、地震直後の情報が入らず（身近なこと）、近所でお互いに入った情報で話し合い協力する（給水場所など）、近隣の大切さを思う。
・一週間位は男性の手があったので協力して排水管の応急手当てをした。
・非常用持出し袋を作る。
・簡素な生活（物が多い）を心がけること。

大なり小なり地震保険に入っておくべきだった。常日頃の蓄えがいかに大切であるか身にしみてわかった（家の修繕にお金が必要な為）。シンプルな生活がベストであると言うこともよくわかった。

傷んだとは言え、住むことの出来る家があることに感謝します。懐中電灯・携帯ラジオを手許においておくこと、メガネをケースに入れて枕元に置いて休む。人生いつ何時、何が起きるかわからないということがよくわかった。シンプルライフで行こうとおもっている。（いかに無駄な物を身につけているのか）

日頃思ってもみなかった地震にあい、その時は全く何も考えられず、おさまるのをまつだけでとっさの行動は出来なかった。外出時の場合に家族との連絡場所など考えておく、貴重品や現金、住所録等持出品の用意の大切さと、保管場所のこと等色々反省させられました。

神戸にこんなに大きな地震が起こるなんて、夢にも考えたことがなかった。もう少し西へ来ていたら私も大きな被害を受けていたと思う。自分に出来ることは何か、私より困っている方に何かしなければと思っている。

余計な物はできるだけ持たない様シンプルライフを目指したいと思ったこと、家を無くした人の気持ちを本当の所で理解出来ないものがある。垂水は被害も少なく、水、ガスが来なかったが、そんなものではないと思う。

終わったこととして受け止めるのではなく、忘れずに覚えていて、今後の生活に生かしていかなければ意味がないと思いました。

よく友の会で適量、適量と言われていますが、この度の震災ですべてにおいて本気で適量を考えて行きたいと思いました。非常持出しの準備をしておくこと。

自分の生命は自分で守る姿勢と共に、近隣とのＮＥＴＷＯＲＫをもつ（一人暮らしの母や娘にも伝えること）、

① 家族の資産をリストアップした用紙を家族各自が持っておくこと。
② リスクマネージメントとして、もう一度損保や生保をチェックすること。
③ 生活の設計をして生き方を考えること。

など日常の流れの中でじっくり見直す機会がない生活を反省し、生き方を考えさせられた。

普段の何げない毎日の生活が、とても幸せでありがたいものだったと気づかされた。地震に対する備えをしていなかったので、転倒防止金具をタンスにつけたり、非常持出しのリュックを用意したりすることの大切さを感じ、すぐに実行した。地震などの災害時にも、あわてず落ち着いて行動することの大切さ。地震の後、火事を起こさないように、特に火の用心が大切である。

防災に対しての心がまえ、たとえば水をためておくとか、食料品の買い置きがなかったから、そのようなことのないよう心がけたい。情報が少なかった。テレビが写らなくて情況がよくわからなかった。でも、近所の助け合いがたくさんあった。

まさかこの様な地震がくるとは思ってもみなかったことが起こり、16日までの生活が一変してしまった方達の苦しみ、悲しみを被害の少なかった私も決して忘れてはいけないと思います。健康に気をつけて１人１人の市民が立ち上がって頑張ると、前よりも一層すばらしい神戸になると信じます。

こわれた多くの食器を目の前にして、もう、上等な食器はいらない……と、その時は思いました。知らず知らずのうちにぜいたくになり、どっぷりとその感覚にひたっていた様に感じました。特別な時にと、とっておかず、よい食器もどんどん使っていきたいと思いました。そして、やはり近くの友人達とのおたがいの思いやりはとてもうれしいでした。あるものを分けあって、我が家もお水をいろんなお家に配る事ができました。遠くの親戚よりも近くの他人を、身をもって思いました。大きな自然の力を前にして、やはり今できる事を精一杯しなくてはいけないと心に深くきざみました。

ベッドのそばに本箱等を置かない。貴重品はまとめておくこと。最低一日分の食料（水とか食べ物）を用意しておきたい。

地震を人ごとだとおもっていたが痛みがわかった。これだけ大きな被害が神戸市であったが、垂水はそれ程の被害がなかったので、家を無くしたり家族を失った人の本当の気持ちが理解出来ていない様に思う。

大きな家具（婚礼用）は持たないほうがよい。全国からの支援を頂いて有難かった。友の会から義援金を頂き有り難うございました。政府、官公庁の対応が遅い。ボランティアの人がよく頑張っておられる。

あまりにも自分の身の回りに不用な物が多いこと。寝室には背の高い家具は入れない、やむなく入れる場合は固定できるよう工夫をする。家具の上には物をのせない。

生活の簡素化(SINPLE LIFE) の大切さ、日頃の整理整頓の大切さを痛感した。会員係の武知さんから電話をいただいた事うれしかった。日頃御近所の付き合い（助け合い）人間関係が大きく左右した様でうれしかった。普段当り前と思っていたことへの感謝の気持ちが募っている。友の会の求めている生活が如何なる苦難をも乗り越えられることを感じた。人生何が起きるかわからないと実感、一日一日を大切に生きようと思う。

家族それぞれが各々の大事な物の管理を心がけるようになった。

衣類、家具すべて物は少ない方が良いと改めて思いました。

今度の震災では住んでいた場所、建物の丈夫さにより明暗を分けたと思います。自然の前で人間はこんなに無力なのかと思い知らされました。絶対にないと思っていた事がそうでなかった。このことを頭のすみにおいて生活して行きたいと思います。多くの知り合いの人から電話をもらいうれしく思いました。

一瞬にして、物も平和であった日常生活も親子の絆も奪ってしまう。この恐ろしい出来事にしばらくは只呆然とするしかなかったが、時がたつにつれて、人と人との会話が戻り、やはり、お互いが今まで感じなかった（水くみ、近所の人と、最寄会等で）思いやり、愛のことばを掛け合う事の大切さを感じた。

関西には、まさかこんなに大きな震災はないと思っていたこと、よい準備ができていなかったこと（精神的にも）。まだ、色々ととても大変ですが友人、知人を通して多くの暖かいお心を頂き感謝の思いです。

何と言っても家族の結びつきの強さを感じ、確認し合えた。構える事のない人に対する人のやさしさを。戦争でなくてよかった。天災は嘆き悲しみはあるが、人が人に対して、にくしみ合う事がないのが本当に助かります。

カーテンボックスの上に物を飾らないこと。食器棚はドアー式よりスライド式の方がよい。すぐに風呂に水をはったのは良かった。寝室に倒れて来る物とか落ちる物のなかったのは良かったのですが、子供部屋兼寝室の所は本棚やテレビが落ちたり倒れたりと危なかった。皆がけがもなく無事だった事を感謝しています。

他所で起きた震災などの災害に対して人ごとのように思い、あまり協力していなかったが、全国各地の方々からの色々な援助を目の当たりにして、自分の冷たさ思いやりのなさを痛感した。

ボランティア活動のむずかしさを思う。しかし、自立した精神力を養うことによって、助ける側も助けられる側も良い判断ができるので、自立、克己ということを鍛えてゆきたいと思う。

この震災でたくさんの人々から、支えられて生活していけることを強く感じました。いろんな友人、知人、親類の人たちのやさしさにふれ感動しました。

関西は地震などないだろうと思っていたところに今回の大災害、すごく不安でした。２週間位は昼間に何も手につかず、夜も眠れませんでした。でも、不安な毎日の中、人の心の暖かさがとてもよく感じられました。助けてもらったり、助けたりでした。今まであたりまえのように思っていた水道、ガスが停止し、便利で毎日の生活にどれだけ必要であったかということ、水道、ガスがもとどおりになり、今回のことをいつまで覚えていられるか、ありがたさを忘れずにいられるかが、気掛かりです。

震災直後家族の多い（６人）我家にご近所や友達が、たくさん食べる男の子がいるからとパンを分けてくれたり、水が止まった時、水の出る実家に行くからとお米や野菜を洗ってきてくれたりと随分助けてもらいました。私は実家が灘にあり半壊で避難していたので、その実家へ方面の人達が野菜や常備菜を作ってくれたりと、友の会の人達にも随分助けてもらいました。今、実家の家族は落ち着き先が決まりホッとしています。我家は幸いにして、あまり大きな被害はなかったので、私は今私のできる事を思って、友の会でお手伝いをさせてもらっていますが、被災地である神戸はじっくりとこれからの事を考える時期に来ていると思います。今回程、人と人とのつながりを考えさせられた事はなかったように思います。

学歴、地位等より自分の手に職を持って、即行動を起こせる人はすごいなーと思った。近隣者の友人がとてもたよりになった。いい街だと思った場所も、人間が次々に自然を破壊し必要ではなさそうなものまで便利にしてしまい、便利中心のつけのような気がした。自然をもっとゆっくり自分たちのものにして、不便も自然の一部分という大きな気持ちを持って過ごせたらよかったなあ。
集合住宅等を作る時、老人が住みやすく、核家族化されにくい部屋作り、公園があるといいですね。

## 舞子方面

① 人々の優しさ
② 持ち物は全て少なく簡素がよい。置き場の決まった家。
③ 現場把握のない指令（国も友の会も）には往生する。
④ 17万棟が全壊全焼（世帯数24万）…人数は5～60万か。死亡者数の事。
⑤ あの中で頭巾かぶっていても死ぬときは死ぬと思う。非常持ち出しなど取りにはいけない。

思うことは日々変化もしていったので一概には書けないが…
突発的なことに対して、いかに無防備に、油断して生活していたか、
家族が当たり前に平凡に生活できることのありがたさ、
人間一人ではあるいは家族だけでは生きていけないこと、
一日一日を大切に生活したいこと、etc.
そして、いろいろ感じたことを、いつのまにか忘れて、「喉元すぎれば…」にならないようにしたいと思います。

日常の生活に困ることはなんにも有りませんでしたが、学校が休校や短縮になり、子供の生活時間が変わりました。先生も親も、何か違うと感じている子供と話をする時間、一緒にいる時間を多く取る事が出来て良かった。
多くの物はいらない。整理整頓をきちんとした生活をしていればあわてなく、落ちついて行動できると思いました。

日々の生活のなかでもっと自分の力を磨いていきたいと思った。
人の役に立つことはどんな些細なことでもあるはず。
生活の質をあらゆる意味で高めていくことが必要。
どんな不便ななかでも生活できることを知ったのは収穫。

わが家の被害は少ないほうでしたが、家族や家をなくされた方々の事を思うと、本当に胸が痛みます。具体的な救援活動は募金をした事ぐらいで、何もできない事を申し訳なく思っています。

・ガスが出なかったので、カセットこんろ、電気ポットが必要だった。
・毎日、当たり前に使っていたガスが使えず、ありがたさを感じた。
・便利なガス、電気の危険。

いろんな方から安否の電話を頂き、人のありがたさを感じました。
また、非常用品の準備をしておくべきだと痛感しました。

大変なときにこそ家族や近所のつながりが大切だと思った。
ひごろのつきあいの大切さ。

神戸には地震は来ないという思いこみで、なにも準備していなかった。
幸い、そんなに被害はなかったからよかったものの、すぐ持ち出せるように準備しておく必要を感じました。

地震なんて自分達のところには全く関係ないと思って暮らしてきたけど、こんな事が起こるから、人生何が起こるかわからない。
家が欲しいと思っていたが物欲がなくなり、余分なものなくして、シンプルな暮らしをしようと思う。日々を大切に悔いのないよう誠実に暮らしたい。

シンプルな生活の大切さ、逆境にあったときに立ち上がろうとする強さ（バイタリティ）の大切さを感じました。又、「ボランティア」の真の意味を今考えています。

ご近所でも仕事をなくされた方がいたり、混乱している。
自分の気持ちと周囲の様子がうまくまとまらないため落ちつかない。

体育館などに少し行ったりしましたが、その時の体験も忘れずにと思います。

・非常時に備えて、持ち出し袋などは用意しなけらばならないと思った。
・ほとんどタンスの上に物を置かないほうなので、それは、今回助かったが、玄関の下駄箱の上のガラスの置物が落ちて割れ、玄関のたたき、靴の中がガラスだらけになった。真っ暗の中で避難する場合だったら、けがをしていたと思う。陶器製品は置き場を考えねばならない。

・いつも心がけを持って、生活していく事が大切です。
・物を高いところに積み重ねたり、危ない物を置かない生活が大事です。
・すっきりとした暮らしをしたいです。

電気ストーブの元栓をいれたままだったので、上から物が落ちたときスイッチが入り電気が入っていてびっくりしました。ストーブの上に物が落ちてなくって本当によかった。危うく火事になるところでした。元栓は必ず抜く事を家族で確認し合いました。洋服は枕元にたたんで置いておく事。小さいときに親にしつけられた事、忘れていました。

・自然の脅威を感じました。
・人の心の暖かさ。
・なにか、お役に立ちたいと思うばかりで実際の行動にならないはがゆさ。

非常持ち出しは頭でわかっていたけれど、実際にはそれほど真剣に思っていなかった。懐中電灯の点検など、定期的のしておくべきと痛感。

シンプルライフが大切。必要な物以外は持たない暮らし。衣・食・住、日頃から備えておく事、近所の方とのコミニュケーションの大切さ。助け合いの大切さ。

我が家は大した被害もなかったが、今回の地震で紙一重という事を思った。
物に囲まれて生活しているがそれが凶器にもなるということ、友の会の目指すシンプルな生活を改めて願った。

マンションの被害がほとんどなくてよかった。
人間性が見えた。（本音が見えた）
人間の強さを感じた。
物を持たない暮らし
家族が元気な事に感謝。人間のおごりにカツ！！をいれられたようだ。

近隣とのつきあいがいかに大切かを感じた。お金、地位、学歴などでなく、心の暖かさが生きる事にいちばん大切だと感じた。私より質素な生活（年金生活）をされている人から現金が届き、うれしい反面申し訳なく思った。

数十秒間で淡路・阪神地区の人々の生活をすっかり変えてしまった事が驚きです。
何が出来るかどう受けとめるかはまだ未消化のままです。意外だったのは被害のひどい友人から連絡を早くもらった事。

震源地と５キロと離れていない私達がなぜ助かったのか。活断層の向きと言われればそれまでですが、ただただ紙一重の差でしかないと思う。犠牲になっている人達の姿は私達の姿でもある。生かされたのだとつくづく思います。

日持ちのする食料品などの買い置きや、水なども置いておかないといけないと思いました。生活していくのに最低限の物が有ればいいと思うようになりました。
少しずつ家の中の物を片付けながら見直していきたいと思います。
タンスや本棚が頭の上などに落ちてきていたので、本当に紙一重で助かったのだと思います。命を大切にしたいと思います。

今までの便利な生活は当たり前だと思っていたが本当にもろい物だと思った。
助け合う事の大切さを知った。

・地震以外の物についても、とにかく全て何が起こるかわからないという気持ちの備えがなかった。余りにもいつも精神的に緊迫感がない状態だった。
・前にもまして必要な物、多くの目的に使える物をよく考え、シンプルライフをしていきたい。

地震に関しての用意も知識もなかった事を反省している。
自然の力の大きさ、その中で人間の力の弱さを感じたと同時に今の時期は、人間の復興の力の強さも感じている。

簡素な生活の大切さを身をもって感じました。物あるものは壊れる事。
あちこちから安否の電話を頂き、言葉かけの嬉しさを感じました。兄弟達が当座の食料と屋根のシート、ガスボンベ、プロパンガス、電気やかん、お風呂を沸かす電気セットがいちばん役に立ち幸せを感じました。
友社からの対応も胸にじーんと暖かいものを感じました。素早い言葉かけや対応はとても大切な事でした。これからも思いやりの大切さを大事にしていきます。

・近くの友人、遠くの知人・友人の優しさが身にしみた。
・実際に体験しないと人の苦しみは本当にわからないと痛感した。今までの災害は全てよそごとでしかなかった。

人間の力では及びもつかない自然の力と、何時、何が起こるかわからないという不安感、いつもある（水、ガス等）と思ってすごしてきた物がなくなった生活をして、普段からもっと感謝して大切に使いたい。
また、他府県の知人、縁者の心遣い、近隣の人たちとの助け合い、家族が一つになっての協力、さまざまの事を感じました。

・今日ある生活が明日も保証されているという平安な日々が断たれる日があるという事。
・生活必需品は２、３ヵ月の備えがいる事。
・助け合える人々がいてこそ、人は生きていけるのだという事。

家族が皆無事で本当によかった。主人の両親も灘区に住んでいますが、何もなく本当によかった。

まず一番に感じた事は、沢山の方々に助けて頂いた事です。毎日感謝の日々を過ごしています。人と人との暖かさにふれ、感激しました。また、私は被害の少ない所に住んでいますので、何かお役に立ちたいと思っています。どんなときにも人を思いやる気持ちを忘れずに、それが神戸の復興する力になるのではと思います。
多くの方々の暖かい思いやり、支援に感謝でした。現状の把握と思ったり、考えたりせず、即行動してみる事が大切だと思いました。またボランティアの難しさも感じました。被災の少なかった私は被災にあった方々の本当のお気持ちはわかってあげる事は出来ませんが、今出来る事をする事によってわかってもらいたいと思います。いろんな立場の経験を今後の生活にいかせますように。私と主人は、震災直後、知人といろんな面での情報交換をし、助かった事があります。小学校でもらえる水は、当初少ししかもらえなかっり長い行列でしたが、並ばすにたくさん水が出るところを教えてもらったり、ガソリンを売っているガソリンスタンドを聞いたり、お風呂も入れて下さる所も聞きました。公共的情報を待つだけでは、ダメだという事を実感しました。いろんな人にも伝えてあげました。じっと、してもらう事を待つだけではいけない事を感じました。交通状態のものすごさも驚きでした。鉄道の大切さも痛感しました。

自然の力の大きいのに驚きました。技術を誇った高速道路やマンションが倒れている。でもどうもない建物もある。材料の粗末さ、手抜き工事という事がすぐ頭に浮かびました。平常あたりまえと思っていた事が随分恵まれていたのだと、電気、水道、ガスのありがたさを強く感じ感謝し大切に使いたいと思いました。あの大揺れにも壊れなかったぬか味噌のかめ、植木鉢の数々、美しく咲くさざんかのいとおしさを感じます。最後になりましたが、全国の友の会から寄せられた友情に深く感謝いたします。

主人が留守中の事で、近所の人たちの親切が嬉しかったです。変な話ですが、５才の男の子、小二の女の子の手を握って、逃げたり、食料の来ない避難所に３日眠ったりして、子供は二人が限界だと思いました。価値観、人生観は、はっきり、変わりました。ものに執着しなくなった事、人間関係の大切さを痛感しています。

１００年に一回位の大災害でしょうが、一瞬の震動のすごさ、破壊力、自然のエネルギーの物凄さを思いました。
小さな人間の心、暖かさ、愛、協力の力を感じました。

電気、ガス、水道が寸断された生活を初めて体験し、大切さを実感しました。
そして、ご近所の方、友人などいろいろな方の親切な心に感動し、感謝し、改めて交わりの必要性を確認しました。

神戸の地に地震があるとは思っていなかったので、何も準備が出来ていなかった。今後は整えておこうと思っている。回りの人からたくさん優しい声をかけて下さった。大きな組織の中にいる事を感謝している。こういう時こそわずかな力でも役に立てて頂く事が出来ると思う。一ヵ月ばかりの不自由な生活が子どもたちにはよい経験だと思う。

持ち数を減らして、置き場所の決まった家にしたい（暗闇でもわかるように）。米、缶詰等の保存食も必要である。あわてないで今何をするかを考える事。

・部屋に散乱した食器、子どもたちの部屋の本、おもちゃ、主人の部屋のレコード、本、ＣＤ等、片付けながら、又、テレビ、新聞で、映し出される、やはりめちゃくちゃになっている部屋を見て、なんと私達は物に囲まれ、物に埋もれて生活しているのだろう、それに惑わされてきた生活だったのではないか…、シンプルな生活が大切だと思った。
・全国友の会、婦人之友社、自由学園の三団体の迅速な働きと、その団体の力の大きさに感心すると共に、感謝しています。
・全国からのガス、水道、電気あらゆる事への復旧活動に対する応援、避難所などへの沢山のボランティアの人たちへ感謝しています。

町内の連絡（たとえば、水の出るところ、お風呂など）が何一つなく、口コミしか得る情報がなかったので、電話が使えない等の状況では昔ながらの隣近所のおつきあいなど大切だと思います。

今、震災がきて一ヵ月半余り立ったけれども、時々余震がある場合にとても怖いです。まだ、自分もそういう気持ちから立ち直っていないと思う。又、水、電気、ガスのありがたさがよくわかりました。

自然の威力の大きさと人間の力の及ばない事。物は持ち過ぎない事。近所の人達との助け合いが初めて出来た事はよかったと思う。又心配して助けてくれた家族、親族、友人達への感謝を忘れないでいたい。生きている事を大切に暮らしたいです。

・人の命のはかなさ、無常感
・自然の力に対する人間の無力さ。同時にすぐに復興に向かって歩み出す強さも。
・奥尻の被災者等、最愛の人を亡くした人、どん底を経験した人の言葉が胸にしみた。
・物は出来るだけ少なくして簡素な生活を、という事がよくわかった。

ふつうの生活の幸せを感じた。

# 西神方面

自然災害の恐ろしさ。どんな準備をしていても絶対大丈夫という事はないでしょう。被災した人に対する他からの思いやりに感謝すると同時に、自分自身何もしていない事に申し訳なさと腹立たしさを感じる。今後、自分にできる事を長く続けていきたい。

予期せぬ大きな災害があって、全国の多くの人々の助けがあることを知りました。そして、こんな時こそ普段の生活の生き方が強く出てくるのだという事が分かり、日常のよい生活の積み重ねが大事なのだと思った。

家族の協力でこれまで過ごせてこられたと思います。（体力的なことで）自分自身の地震にたいするショックが大きかっただけに、他の方への思いやりに欠ける所があったかと思います。（ボランティア活動など）友の会の会員の方々の心配りに感謝いたします。ありがとうございます。

いつも利用していた建物や交通機関が震災で使用不可能になるなど、安全性を考えた事もないそれまでの生活の空しさにショックを感じた。

全てにおいて「備えよ常に」が役に立った。シンプルライフを求め続けたいし「本当に大切なもの」の認識。命の使い方を考えさせられ、家族への責任を果たした後の行き先は？　日常の当たり前の生活の感謝を新たに感じた。

人間に必要なものはそんなに多くない。物欲が消えた。家を整理して最低限のもので心は豊かに、という友の会の本来の思想で本気に生きる決心がついた。少しずつ家のものを整理していくつもり。

家の整理。衣類の整理。

根本的には生かされたことのありがたさ。それをどうこの地域で活動していけるか。人と人のふれあい、協力を大事にして復興に向かっていきたい。

震災の怖さが予測以上でした。震災後、ボランティア活動に参加しました。一人では出来ないことですが、友の会に入っていて働く場所があったので、よかったと思いました。

自分一人の力は小さいこと。友の会に連なっていてよかった。責任と義務の重さ。会員一人一人がいろんな所で自分の出来ることから、参加し力を出してくれたことがうれしかった。私はただみんなに知らせる役目を…。時と場を大切にしないといけないと思った。

地球にも年齢があることを感じ、その地球上に住む人間だったこと。物を沢山持ちすぎず、しかし最低三日分を生活できる日頃の心構え。

シンプルライフを心掛ける。枕元に非常持ち出し袋を置いておくようにしています。

計画的に備蓄（食料、水など）を考えておくことの大切さ。消火器も必要かと。
非常持ち出し袋の用意。防災頭巾。ろうそくは絶対に危険と思います。

無事に馴らされ神戸は地震とは縁のない所と、勝手に決めて思い込んでいる事の愚かさを思い知らされたと思う。

物は要らない！！　主婦だけでなく家族が家の中の物の在処を知っていることが必要（子供も）。整理！！　一か所だけに集中せず、分散させておくこともいいかなと思うようになった。（水、食料、非常用品など）

寝る場所は特に物を置かない。電気、ガス、水道の大切さ。これからどんな事が起こるか分からないので、常にいざという時の事を思って用意しておくこと。
（自分のこと、人のこと）…自分勝手な自分がこの先どう人のことを思っていけるのか。素直に人のことを思える自分になりたい。

地震に対する備え、対策を家族で話し合っていこうと思う。今回の直下型地震に対しては、どうすることも出来なかった部分もあったと思います。テレビのワイドショーで肩書のある人が地震のことを話していたが、他人事のように白々しく見ていて腹が立った。10数秒で家が倒壊したり、すぐ火の手があがったら逃げるだけで精一杯。まして真っ暗闇のなかでは貴重品や食糧を入れたリュックサックを持てる余裕などないのに…。

神戸に地震が起きるとは思わなかったので、とてもショックが大きかった。
今なお被災されている方がたくさんいて心苦しい思いがする。実家もまだガスが通っていないので、早く通ってほしいと思う。

特に人生観が変わったと言うことはないが、飢餓状態を一度経験したため、神経過敏になってしまった。

生まれ育った神戸、とりわけ中心街の状況をメディアで見るにつけ、喪失感を覚える。自分は“街”にも育てられたのだと再認識した。世の中に“絶対”という事はあり得ないと、高速や新幹線の高架の倒壊を見て思った。これからは“現在”という時を大切にし、シンプルな生活をしてゆきたい。又、多くの方に色々と助けて頂き、自分も人に手をさしのべられる人間になりたいと思っている。

自然の驚異。簡素な生活の大切さ。災害に対する備えを日頃からする。一日一日をしっかり生きる大切さ。◎人と人との助け合いの大切さ。ご近所との日頃のつながりを持つ。

地震は神様から与えられたと思っています。子供たちに信仰を導いていないことを反省し、祈っています。主人と、人生について色々学び合えた事は嬉しいことですが、人に対する思いやりのない自分にも気づいています。被害の大きかった方に対して、申し訳なくつらい気持ちになることが多いです。（同じ神戸に住んでいるのですから）

非常持ち出しの用意をした。

被災地のすぐ隣にいるというのに、子供がいるためボランティア等なかなか参加できないなどの歯がゆさがありました。
けれど、友の会やいろいろな人からの声掛けで少しでも役に立てることができた時は、自己満足かもしれないけれど嬉しかった。新たな人間関係ができました。

まさか、と思うことが実際に起こることがあるということ。行政も含め、我々にはあまりにも備えが無さすぎた。又、地震後、主人の両親（長田区在住）が一ヵ月我が家に滞在。ふだんからよく行き来しているので、自然に生活できた。日頃のコミュニケーションが大切だと思った。この震災で特に高齢者や子供など、弱い者が打撃を受けたことが悲しい。又、全国の友の会、自由学園、友社からの素早い援助活動で、組織の大きさを感じた。

眠る部屋に家具を置かないとか配置に気を付ける。じっとしていないで、どう動くか考えておく。

大地震は他の地域のことと思っていただけに、関西でこのような大きな地震があったことは大きなショックでした。被害が大きかった神戸の中では、ここ西区は非常に被害が少なかった地域であるだけに、被災者の方々に微力ながら何かお手伝いできれば、と思っている。

いつでも逃げられるリュックを、家族全員分いつも用意しておくことの必要性。

# 明石方面

自然の力は大きくて、人の力ではおよばない事が多いという事。

・震災に向けて ― イザという時の用意（懐中電灯・ラジオ・非常食など）をかためて準備しておく大切さを思った。
・ご近所や人とのつながりをもっと毎日の中でしていきたいと思った。

・あたりまえの生活がありがたいということを感じた。
・全国の友人、知人からはげましをもらった。
・子ども（中学生）が避難所でお手伝いができたことがうれしかった。

―昨年まで私も西宮に住んでいましたが、住んでいたところは建物も古かったのもありますが、倒壊しているようです。もしあのまま住んでいたら今ごろどうなっていたかと思うと人ごとではなく、本当におそろしくなりました。けれどお友達もたくさんいたので、今だに連絡のつかない人のことを思うと、とても心配しています。
後になって感じたのですが、私たちは神様によって生かされ、そして守られているんだなと思いました。

・大地震の怖さは時間を追う毎に日を追う毎にあきらかにされていった。
・生命の有難さを思う。
・日々の生活の大切さも、できなくなると思うと、はっきりわかった。
・本当に大切なものは多くないなと思った。
・本当の公共費のあり方も、目につきわからせていただいたと思う。

・地震に対する準備が全くなかったこと。
・貴重品・飲料水・衣類など必要なものをリュックにつめて備えた。
・シンプルライフをもっと育てたい。

今回は、たいした被害もなかったが、いつ自分の身にくることかわからないので、冷静な態度で行動できる人間でいたい。

水道が止まって、改めて水の大切さを感じました。また、工夫すればバケツ一杯の水で、料理、食器洗い、トイレ用とくりまわして、かなりのことができることに驚きました。震災直後の情報交換や飲料水、食料のおすそ分けなど、地域、自治会の人たちとのおつき合いが、以前よりも密になったように思います。

まさか、神戸で地震にあうとは思いませんでした。

引っ越したばかりでしたが、ご近所の方に親切にして頂き、大変助けられました。
それでも、自ら情報を集めようとしていなかったので、公的な援助の事もきこえてこない事が多くありました。元気なものでもそうなので、ご近所の方に関心をもち、手をさしのべる必要のある方の力にいつでもなれるように、心をつくしたいと思いました。

友の会で言われる通り、シンプルライフが一番。余分な物の買いすぎに、気をつけるようになりました。
次の日の着がえをまくら元においたり、ラジオ、懐中電灯もまくら元におくようにし、寝る部屋はタンスを置かないことにした。

災害に対しての心構え、準備が、常時出来ているようにしておかないといけないと思った。近所づきあいの大切さを痛感しました。

全く防災に関してそなえていなかったので、この機会にそろえておこうと思う。

・身につけた物は、空しいと実感させられた。
・少々不自由なくらしは頭を働かせる。

新築入居三日目で瓦が落ち壁にヒビが入りました。
自分達の事ばかり考えて他の人へ何か出来る事はないかと思ったのは、ずっと後だったような気がします。

余分な物はいらないと痛感しました。食器棚の上に置いていた高価な食器やコップが飛んで割れましたが買い足していません。
友の会の生活をしていると、多くの困難を感じる事なく毎日が送れた。（水道・ガスが来るまで）
便利に流されている生活は人間を弱くすると思った。

自然の恐ろしさ、大きなビルがたった何十秒かでつぶれるとは。又、火災のために民家が焼ける状況に胸がつまる思いでした。
私は、長田で生まれ育ったので、一日も早く復興して欲しい。

自然のおそろしさ

地震がこんなにこわいものだと思わなかった。
ガス・水道が２週間こず、とても不自由だった。こんな不自由な生活をまだ多くの人がしていると思うと、今後もできることは精一杯協力していきたい。

あの大きな揺れを経験し、少々ながら家にも被害がでましたが、以前と変わりない生活ができている自分に、何もできないはがゆさばかりの今まででした。
あの時間だから子供を守れたけど、あと２時間あとだったら子供すら守れなかったのではと思うとおそろしいです。

・自然の力の激しさと畏れ。
・物のはかなさを痛感しました、と共に、人同士の助け合いの大切さを感じました。

まさかの地震で何の準備もしていなかったことを反省し、当分の間は生活必需品は荷造りして置いてあります。
無事だった我が家ですが、他の役の為に忙しく震災後の雑用におわれ、たいしたボランティアもできていません。炊き出しぐらいしかお手伝いできませんが、それでよければ……

人間の力は自然の力にくらべたら何と小さいものかと思いながら、それでも日々の生活の中で悩んでいる自分の心の狭さを考えさせられた。
物を持つ程、執着とか欲望を生んでいく。この際、すべてを捨てて神の手足とならせて頂けたらと思いつつ、まだ捨てきれないものを多く持っている自分に俗っぽさを感じました。

家庭が安心できてはじめて、他の人の事が考えられることがわかった。無事であることを感謝したい。

個人としての実力、特に危険に対した時、どう行動すればいいのか深く考えました。
また、行政の力に限界のあることも痛感しました。
人生に一度はこのような惨事に直面するのだなと、これもつくづく実感しましたが、また人の力も大切だと知り、とても喜んでいます。
特に、友の会の実力というか底力を見せられ、これも大変すばらしいものを見せていただいたと、とてもうれしく思っています。

「備えあれば憂い無し」ではあるけれど、今回のことは人知の及ぶところではなかったように思える。震災に遭ったのが、なぜ私ではなくあの人だったのかということを真摯に受けとめたい。

このあたりは被害も少なく、ライフラインも大丈夫だったのでホッとしています。
水道が止まるとか、食料がなくなることとかがすぐに思い当たらず、行動にも走らなかったのですが、そうなっていたらと思うとゾーとし、又、反省しました。

日頃からの、備えの大切さを、つくづく感じました。

人間は生きている地球の上に住まわせてもらっているのだということ。

・この大地震を経験して、はじめて地震のおそろしさが身にしみた。
・日本中、世界の国々からも多くの方々の励ましや温かいお支えに勇気づけられ嬉しかった。
・家や物を失くした人々もお互いにいたわり合い、助け合いみんながやさしい気持ちになれたことはすばらしいと思う。
・多くのボランティアの活動に感激しています。
・適量を持つことの大切さがよくわかった。

目がさめたように思いました。今まで小さな事にこだわったり、恵まれた生活にいい気になっていた様です。もっと簡素な生活をしなければと思います。

個人的に避難した者に対して情報が入らないこと。

余分の物を持たず、整理された家という事を痛感いたしました。

形あるものは、いつかはくずれる。永遠ではなく、絶対ということは言えないのだと身にしみて感じた。正常でない異常（状）な状態の中に置かれた時に、人としてどう行動するか、何ができるかを問われた様に思う。

自分自身の被害が少なかった為、何か困っている方の力になりたいと思ったが、自分の生活の中でも、精神的にしっかりしていない様な、生半可なことでは、求めておられることに応える人にはなり得ない。友の会の方々の中で助け合えたことは感謝している。手作りを習ってきたおかげで、一時の食糧不足に困ることがなかった。（インスタントもの等一切使わず、すごせた）
復旧、復旧と声は高くなり、きっと物質的復旧は戦後の日本のように素晴らしく成しとげると思うが、人の心の復旧も考えたい。お年寄りの方達の心の傷のこと。又、形の復旧により、人の心は、反対に冷たくなって都会的になっていかないか？と思う。

・やはり貴重品をまとめたおくことと、最低2、3日～1週間の食べ物と、衣類（下着）の用意を寝室に置くこと。
・懐中電灯をどの部屋にも置いておきたい。
・それと電池の用意をしておくこと。

・自然の力には人間は対応出来ないことがわかった。
・風呂の水をぬかなかったことがよかった。
・水をくむとしたら栓のあるもの。
・懐中電灯、ラジオ、着るものはきちんと枕もとにおく。

ご近所の方に水くみとか舎中から届いた食品などいただき助かりました。今回程人の心の暖かさを感じ感謝です。その後1月末に友の会災害対策委員の方や学生さんが訪ねて下さり、久し振りにおいしいお菓子他をいただき、主人共々感謝しました。日頃からまあまあの暮らしをしていたつもりでしたが、やはり物が多く、こわれた家具・食器などが無くなり、家の中がやや広くなったように思う。
もう少し考えてくらさなければ…

・平凡な生活がしあわせなんだと感じました。
・生かされていることの感謝と、しなければならない事を毎日精一杯していきたいと思いました。

早速の友の会の働きはさすが、生活即教育で普段の生活をしっかりしている団体だと感じた。例会に行ってよかった。（少し元気が出た）

初めはせめて水をと思い、それがかなうとガスがあればと思う、われ乍ら次々と欲求の広がりがあることを思いました。元々、持ち数は少ないと思っていましたが、食器類の大半が壊れたと思うのに殆ど困ることはありません。生活の全ての贅肉を落とすよい機会にしたいと思います。大変ななかで友の会活動としてボランティアを続けて下さる方があって、その中に参加させていただけることは感謝です。

・起床するのがもう少し遅いと和ダンスの下敷きになるところだったので、家具の配置を考え直す必要があると思う。
・今迄当たり前と思って生活していたライフラインの一つが欠けても、こんなに不便な事を痛感した。
・これからの生活を見直す様にと思っている。

家中の片付けが大変だった。家の修理にお金がかかるという位で、家族が無事で住む所がある恵まれた立場をありがたく思う。簡素な暮らしの大切さ、物が多すぎるこれまでの暮らしから、足りない位で工夫して物を大切に使う人間になりたい。
自然をこわさないように、大切に、謙遜でありたい。

・備えのある生活をすること。
・器具はガスと電気と両方上手に揃えておく事。

・『備えあれば憂いなし』といった生活をすべき事。
・このような状態の時、人間の本質を問われていると思った。（火事場泥棒みたいな事や、活き活きと働くボランティアの若い人々の顔）
・必要とされている時期に、子供が幼い為自分自身が動けず、お役に立てなかった苛立たしさ。

今は主人と一緒ですが、一人になったらと思うと健康を大切に、恵まれて持ち数が多い事が罹災者に御用だてられたらと思っています。

・できるだけ生活をシンプルにしていきたい。
・物をふやさないように。

・御影の家も灘の家もあっという間の全壊した。
・ほとんど持ち出せない状態でしたが、道具はあまり多く持たないほうがいいなと思いました。

・実際に起こってみて、今回の地震のような状態では、避難等という余裕等ない。
・報道がすぐきける様なもの（ラジオ・テレビ等）、貴重品はすぐとり出せる所においておく事。
・ボランティアの活動が人々の心をどんなに励ましになった事か。

・テレビで大震災とわかっても、自分が何が出来るか、考えがおよばなかった。
・どうすればほんとうに困っている方々の手助けになるか、自分で考える事が出来ず恥ずかしい思いがした。

毎日を大切に生きていかないといけないと思ったこと。良い友人達に恵まれていることの幸せを思った。

物の適量を考えたい。もっとシンプルに生活をしていきたい。

安心して暮らしていた生活がはかないものの上になりたっていた事。
洗濯やトイレにいかに多量の水を使用していたか実感した。

明石の方は被害も大きくなかったので、一ヵ月半経った今は、ほとんど普通の生活に戻っているが、神戸のことを思うと心が痛む。特に長田の火災のことを考えると水さえ出れば、あんなにならなかっただろうと思うと残念。

全国の方々の暖かい支援にただ感謝するのみです。神戸の町は失っても、人々の暖かい心をいただいた気がする。水や、ガスのありがたさも身にしみて感じます。そしてもっとシンプルな生活をしなくてはと、考えさせられました。

普段の近所、友人との人間関係の大切さを痛感した。

水がなければ生活できないという事。大事に使わなければと思いながらも、水が自由に使えるようになるとつい気持ちがゆるんでしまいますが、節水に心がけていきたいと思います。

寝る前にやかんに水を入れておく事、保存食を用意しておく事が必要だと思う。

何気なく使っている水、ガス、電気のありがたみが、すごくわかりました。
家族同様に交際し、盆休み、お正月はいつも一緒にすごしていた友人と子供が亡くなりました。とても悲しいし、なんとも言えない気持ちです。

人間の力の小ささ、自然の力の大きさを痛感しました。人が一人では生きられないこと、人の暖かさ、地域の大切さ、等々。こんな時だからこそ言葉に気をつけなければと思います。人が見える（？）ように思います。又、形ある物は空しいと思い、何が大切なのかと考えてシンプルライフを目指したいと思います。

適量ということを真剣に思った。

ライフラインの水が二日出ないだけでも非常に困りました。一つ違えば、運がよかっただけで、我が家も被災民になっていたかもしれません。普段から心がけておかねばと強く思いました。

実家が遠いので隣近所の方々との協力が心強くありがたかったことが、親子とも忘れられません。大切にしたいと思います。

人間の力ではとうてい防げない大自然のエネルギーの大きさをまず感じた。全ての創造主である偉大な方の存在をあらたに思った。人間は謙虚に自然界とバランスよく生きていくことが課題なのでは…。自分自身の生活、姿勢を反省し、今後は亡くなった方々の為にも前向きに一日一日を大切にしていきたいと思う。

自然の力の強さ、恐ろしさを痛感した。人の心の暖かさが戻ったような気もした。
自分の所が大丈夫だったので何かしなければ…と思ったが、なかなか動けなかった。

「あたりまえのこと」毎日の生活の中での感謝。
家族が一緒にいること。この時は幸いに夫が自宅にいたので、落ち着いて行動できたと思う。

日頃は余りお付き合いのない近所の方達との声の掛け合い、情報の交換等とてもありがたく、親切が身にしみました。必要最小限のシンプルな生活をしなければと思います。今までの生活を反省してます。

今までの地震を人ごとのように思っていましたし、深く地震の恐ろしさを考えてもいませんでした。命が助かったことをうれしく思います。私達家族もたくさんの方々の暖かい助けをかり、明日につながる勇気がわいてきました。優しい人にたくさん出会いました。

自然の中の人間だということを強く感じました。そして、宇宙の長い歴史の中のほんの一瞬を生きているんだとも思い、これからこども達に何を伝えていけば良いのか考えているところです。

シンプルがベストだと思いました（生活は）。
自分の出来ることは少ないですが、必要とされていることで手伝ってゆきたいと思います。ボランティアのあり方をいま感じています。

地震はこないと思っていて何の準備もしていなかった自分ののんきさを反省すると共に、「備えあれば憂いなし」で、日頃から非常用のものを準備しないといけないと思った。もう一度自分の生活を見直し、シンプルライフを自覚したい。

はじめての体験でしたが、さいわい家族が無事で本当に良かったです。皆、力をあわせて水汲みや片付けができ、家族がひとつになりました。又、水の大切さをあらためて思い、洗濯の水など大事に使うようになりました。遠くの親戚や友達が心配して下さり、電話をくれたり、いろいろ心配りをしてくださいました。ガスが使えなくお風呂に入れないとき、子どものお友達の家で入らせて頂き本当にありがたく思いました。

人間は本当に小さい存在で、地球の表面にちょっと住まわせていただいているのだという事。同時に、命の大切さ。一人一人の人間の命の重さ。子ども達も含め力を出して生活のために協力できるものなのだと思った。

日頃友の会で学び合っていることをいかして、水やガスのない間も被災地から疲れて帰宅する主人や友人達のために、日頃よりも栄養のバランスを考えて食事づくりに専念出来たことが嬉しかった。

## 幼児生活団　震災後のあゆみ

３学期第１回目の集合日を終えたところで震災にあう。震災直後より、指導者は在団生とその家族、新４才組に入団する予定の人達の安否を確かめる為に電話をかけ、どうしても通じない所にはたずねて行く。

家屋の全壊・半壊のため近くの学校や実家、親類宅に避難したり、またライフライン復旧迄はと遠方に避難している人もあり、全員と連絡がとれるのに日数がかかるが、子どもも家族も指導者も全員無事であることを確認する。

在団生－全焼１名　　全壊－２名　　新入団生－全壊３名　　指導者－全壊２名

各組で飼育している動物のお世話は

鳩（６才）…救援活動の為に友の家に来て下さっている自由学園の生徒さんにして頂く

モルモット（５才）…友の会会員が自宅に持ち帰り、その後指導者が自宅で世話をする

十姉妹（４才）…指導者が自宅に持ち帰り世話をする。

１／28(土)　指導者（神戸生活団、明石生活団合わせて12人出席）の集まりを持ち、これからのことを相談する。各組お手紙と励み表を発送する。生活団に来られるようになる迄、通信をする。

２／８(水)　明石６才組、第二友の家プレハブ室に集まる。遠方に避難している１名欠席。

２／15(水)より集合日再開。第二友の家使用不能につき、朝霧連合自治会館を借りる。

２／15(水)　神戸の各組、震災後初めて集まる

６才組…神戸に17名全員元気に集合

５才組、４才組は神戸、明石のどちらか交通の便の良い方に集まる。

５才組…神戸に11名　明石に15名　欠席３名

４才組…神戸に３名　明石に15名　欠席７名

４才組では、ぱっと起きのこと、ふんぱつ子どもとはどんな子どもか話し合い「ふんぱつ子ども」のうたを５才組の子どもに教えてもらう。

各組共約１か月ぶりに顔を合わせ、交通事情の悪い中、まだ幼い子どもを連れて出かけられる状況ではないが、一日も早く生活団を再開したい、再開して欲しいという思いが強くなり、再開できる日を検討する。

６才組は２／22(水)に再開、３／１(水)、３／８(水)、計３回集合日を持つ。３／11(土)姫路に鳩飛ばしに全員で行く。

５才組は３／３(金)に再開、３／10(金)時間短縮して計２回集合日を持つ。

４才組は３／２(木)に再開、３／９(木)、３／14(火)時間短縮して計３回集合日を持つ。

３／19(日)　神戸生活団６才組は、第52回卒業式を行い、17名卒業する。

３／25(土)　明石生活団６才組が第一友の家にて、第28回卒業式を行い、15人卒業する。

明石生活団は30年間の夢を閉じ、これからは神戸友の会幼児生活団として新たな出発をすることになる。

３／29(水)、３／30(木)　新入団４才組の子供達への家庭訪問をする。

各地生活団、友の会より励ましやお見舞いのお手紙、また子どもの描いた絵など、戴き、子どもも指導者もその温かいお気持に支えられて、大変な時を乗り越えられたことを感謝します。全焼して何もかも失い、吹田市に移り住むことになったＭさんは、一時は生活団をやめることを考えたが、

大阪生活団の指導者より、生活団のカバンを贈られたことで、また生活団に行くことを決心した。大阪生活団６才組父母会は、卒業勉強として生活団に防災頭巾を備えることを考え、神戸にも贈って下さった（子ども用35、大人用15）これは保育室に常時保管、組毎にかぶる練習をした。

４／12(水)　６才組27名、４／13(木)　４才組24名、４／14(金)　５才組25名指導者17名（内２名の明石生活団より移籍）で新学期が始まる。

新６才組の１名は粉塵などの環境悪化で健康のことを懸念して退団。

新４才組の入団する予定だった３名は震災の為、状況が変わり入団を取りやめられた。しかし、全壊又は半壊のため仮の住居や仮設住宅から、また避難先の宇治、吹田、寝屋川などの遠方から、長時間かけて、登団する子どももいる。

交通機関はまだ不通部分もあるので、始まりの時刻を遅らせたが、復旧に伴い、徐々に定刻に始められるようになる。

全壊の人４名の月謝（６ヵ月分）は、友の会のわれらの公共費より出して下さる。

1995年度は、子ども達の家庭も指導者も震災後のさまざまな事情を抱えての１年だったが、毎週の集合日も遠足、お泊り勉強、体操会、鳩とばしなどの行事も全て例年通りのことができたことは感謝です。しかし、1996年度新４才組の募集は、入団希望者数が少なく現在も募集を続けている。幼児数の減少に加え震災の影響も大きいと思われるが、１人でも多くの子どもを与えられることを希っている。

## 名簿のこと

生活団が誕生して、56年を迎え、卒業生、父母の方々にこれからも生活団を支えていただきたいと希い卒業生名簿の作成に取りかかっている。（昭和15年～37年入団の方をご存知の方、ご連絡下さい。９月頃に出来上がる予定です。）

## ′95年度　生活学園震災後のこと

地震後、指導者が手分けして生徒の安否を確認した。

全壊・半開が数人あったものの全員無事と判る。

全体の様子が判り始めた段階で二学期の授業を修了し、三学期は自由参加という形で友の会会員や自由学園生と共に救援活動に入った。

自由学園が三学期の勉強を神戸でのボランティァに変えたと聞き、神戸の生徒にも大切な時が与えられたと思った。

若い力はどこでも重宝がられ、避難所の子ども達と仲間になりたいと願って作られた「なかよし会」での大きな役割、炊き出しや働き人の食事を作ることで、ふだんの授業で得られない体験をした。

特に働き人のために巻ずし120本を巻いたことは大きな力となった。

他の主な働きとして物資の仕分け、被災舎へ送る物資の荷造り、雑巾縫い、東灘区役所での手伝い（電車が通っていないので､徒歩・バス・阪急電車と乗り次いで。）

なかよし会ではお姉ちゃんと慕われ、自由学園生と共におひな様を作り、ストロー笛、ブーメラン作り、ギニョールなどとお役に立てて頂いた。

以下、日誌に書かれた感想から

○　遠方からの他友の会　自由学園生の協力に驚いた。

○　少しでもお役に立てれば嬉しい。

○　炊き出しの昼食が足りなくて空のお皿を持って帰る子どもの姿がとても悲しかった。

○　届けられた衣類の中に人に差し上げられないような品もあり、考えさせられた。

○　久しぶりの友の家。活気があって元気になれた。

○　テント生活をしている人達の大変さを見て言葉がでなかった。

○　暖かい食事がよろこばれ、まだまだがんばろうと思う。

○　なかよし会で子ども達と折り紙やサッカーなどして久しぶりに童心にかえり楽しいひとときを送った。

○　実際に炊き出しをしたり避難所へ行くとテレビで見るのと違っていた。

○　大量炊事がどういうものか判った。来てよかった。

○　少しずつ避難所の様子が変わってきている様に思った。できるだけ早く家族が揃って家に住めるようになってほしい。

○　温かいものを食べて頂くための工夫（新聞・毛布で包む）など感動。

○　変わり果てた神戸の姿に絶句した。お世話になった神戸に恩返ししたい気持ちで一杯です。たくましく活動している友の会を誇りに思う（卒業生）

救援物資が積まれた部屋で各クラス修了式に変わるお別れ会を持った。

3月29日　家事クラス　赤飯を炊いて今迄に習った料理から持ち寄り立食パーティをして修了。

4月9日　夜間クラス　お花ずし　お清汁桜もち実習で修了。

4月24日　衣服クラス　縫い上げた服を着て皆で見合い修了。

’95年度出発に当り、交通事情も悪く夜の街は歩けない状態で夜間クラスを休むことにし土曜クラスを設ける。（第２・第４土曜日の月２回）

衣服クラスも一年生募集を取りやめ、一ヵ月遅れの入学式を各クラスごとに行なう。震災前に申込んでいて被災し、四国へ避難された為、入学できなかった人もありました。

新年度入学者のためにと、東京第三友の会から白スモック50枚を縫って送って下さる。工芸研究所の三角布も50枚頂き有難く使わせて頂きました。

例年クリスマスを迎える前に止揚学園訪問とプレゼントを作り志染愛真ホーム訪問を生徒の大事な交わりとしていたが、’95年度は事情を話してやめさせて頂き、友の家近くの王子仮設住宅へ手作りのクッキーにカードを添えて１戸１戸にお届けした。

震災後救援のため友の家に来た生活学園生延べ人数78人　卒業13人　指導者10人　家屋全壊ありましたが無事でそれぞれ困難な状態の中で持てるものを生徒に伝えながら交わり、惜しみなく力を尽くした。

今回の震災で家事の基礎技術の大切さを一層感じました。

大切な体験をさせて頂きました。感謝して報告終わります。感謝の報告とします。

続いて救援活動をした卒業生の手記です。

○みんなが集まるグランドのすみにある集合場所にドラム缶があり、いつも誰かが火の見張り番をしていた。
大人も子供も老人も、みんな寄り添うようにしてあったまれるコミュニケーションの場所がそこにあった。
火は２月の寒空の下でオレンジ色の火花を散らして燃えていた。
すすでまっくろなやかんが印象的だった。

○おかっぱ頭の眼のくりくりした５歳のしおりちゃん。
昼間はお母さんもお父さんも壊れた家を直すために小学校の避難所にはいない。
いつもさみしそうな彼女は私が行くと、いつもまとわりついてくる。
「お姉ちゃん、しおりのブランコのるとこ見て！」
「お姉ちゃん、チョコレートあげるから一緒に鉄棒しよ」
鼻水もカチカチになって、袖もコテコテになって、顔もガサガサになってそれでも走りまわるしおりちゃん
私は彼女と手をつないで遊んだ。
帰るとき「お姉ちゃん　明日も来てよ」と手をふる彼女が忘れられない。

○自衛隊の28歳のお兄ちゃん。たぶん秋田か新潟の人だと思うが、水をくみに行った時校庭のはしで「はやく家に帰りたいなー」とつぶやいているのを聞いた。
待つ人があるのだろうか。彼等も仕事とはいえ家族もあるだろうに…
みんないろいろな形でがんばっているんだと思うと重たいはずの水も少し軽くなった気持ちがした。いつも水くみ手伝ってくれてありがとう。

○炊き出しのお手伝いというきっかけから約１週間という短期間ではあったがいろんな事を勉強した。

水やお風呂や火のありがたさ

ぞうすいのあったかさ　しおりちゃんとつないだ手のぬくもり。

人はやっぱり助けあいながら生きている。

１人じゃあ生きられない事を本当に肌で感じた。

子ども達の笑い顔・たくましさなど救いがいっぱいあった。

家をなくして１人ぼっちになってしまったおじさんがしわしわの手をこぶしににぎって「忘れたらあかん　この事を」とみんなに話していた。

月日が流れて街が復興していくとともに私達の心の中からあのこわかった思いが薄れていくだろう。

でも貴重な体験で自分自身が得たことを次のかてにして何かに役立てたいと思う。

みんながんばれ！　私もがんばります。

○震災後ボランティアに参加させていただいた中で、一年以上たった今も決して忘れられないことがあります。

近くの小学校へ炊き出しに行くと、教室、側の公園のテントとあちこちから多くの方々が温かい食事を求めて来られ、何十食分もの食事があっという間に底をつきてしまいました。私達がひきあげようとしていると、小さな子供達が何度も使いまわしているであろう空のポリ容器を手に、うれしそうな顔をして走ってきたのです。そんな子供達に向かって「もうなくなってしまったの。また来るから本当にごめんね。」と言うしかなかったあの時は本当にツラかったです。

同じ地震を体験しながら、家に帰ればあたたかい食事もオフロも自分のベッドも今まで通りある私が、避難していた方々とどのように接すればよいのかとまどいながらも参加させていただいたボランティアでしたが、多くのことを学びました。

一人一人の少しずつの優しい気持ちがとても大きな力を生むこと。人の苦しみを救えるのは人以外にないことも知りました。

ツライ中から知り学んだことをムダにせぬよう常に心に留めていきたいと思います。

## 各方面の歩み

### ～ 甲南方面 ～

| 月 | 友の会行事 | 救援活動 | 方面行事 |
|---|---|---|---|
| 4 | | 食器セール（会員宅）<br>瀬戸仮設セール | 子どもパジャマ講習会<br>（西岡本ＡＢ　横尾） |
| 5 | 全国大会 | 瀬戸仮設食セール<br>食器セール（会員宅）<br>瀬戸仮設セール | |
| 6 | 友愛セール<br>町田貞子氏講演会 | 瀬戸仮設セール（うちわ張り） | ふすま張り講習（深江）<br>夾纈染講習会<br>パエリア講習会（北岡本） |
| 7 | 木工の会 | 本庄中央仮設セール | 子どもパジャマ講習会<br>子ども料理講習会（４カ所）<br>海藻料理講習会<br>ワイシャツの手入れ講習会 |
| 8 | 夏の工芸講習会<br>音楽会 | 座布団作り | |
| 9 | 例会（当番） | 瀬戸仮設セール（座布団）<br>魚崎南第二仮設セール（座布団） | パエリア講習会<br>部会食土産用クッキー勉強会 |
| 10 | 近畿部会 | 本庄中央仮設セール（座布団） | |
| 11 | 家事家計講習会 | 瀬戸仮設セール（石狩鍋）<br>本庄中央仮設セール | 家計簿つけ方の会 |
| 12 | 友愛セール<br>おもてなし料理講習会 | 仮設へ踏み台配り | クリスマスケーキ講習会（南岡本）<br>乳幼児グループクリスマス会 |
| 1 | | | 家計簿つけかたの会<br>乳幼児グループ会 |
| 2 | | 瀬戸仮設セール<br>（芋団子入りぜんざい） | 光の国幼稚園料理講習会<br>海藻料理講習会（北岡本） |

**－ 甲南方面リーダー　　野　村　育　恵 －**

震災直後は方面の会員のほとんどが遠方に避難し、会員65人中自宅に連絡のつく人は20人いるかいないかという状態でした。それでも甲南は、方面の端から端までの移動が自転車で充分という近さが大きな助けとなり、互いに顔を合わせ連絡を取り合うことで、被災のひどかった中でも、比較的早く元気に活動が始められたように思います。公園という公園に仮設住宅が建ちならび、こんな時こそ友の会らしい救援活動をしなければという使命を感じつつも、自分達の生活の建て直しと平行しての働きは満足の行くものではありませんでした。まだ遠方に住む９人の会員が、方面に帰ってみえるのをお待ちしています。

～ 御影方面 ～

| 月 | 友の会行事 | 救援活動 | 方面行事 |
|---|---|---|---|
| 4 | | 六甲アイランド<br>第1、2、3仮設セール | ふとんづくり |
| 5 | 全国大会 | 六甲アイランド<br>第6仮設住宅向セール | 子どもグループ会<br>ふとん作り |
| 6 | 友愛セール<br>町田貞子氏講演会 | 六甲アイランド第6仮設間セール | 子どもグループ会<br>フェルトの時計作り<br>パンを見合う |
| 7 | 例会（当番）<br>木工の会 | 住吉中最寄<br>納さん宅荷物移動 | 子どもグループ会 |
| 8 | 夏の工芸講習会<br>音楽会 | 鴨子原最寄<br>森口さん宅ポーアイ新居掃除 | パン講習 |
| 9 | | | パン講習<br>シーツののりつけ<br>生活団説明会（六甲アイランド） |
| 10 | 近畿部会 | 御影中仮設住宅<br>住吉宮町仮設<br>六甲アイランド<br>第6仮設向セール | 子どもグループ会 |
| 11 | 家事家計講習会 | | 家計簿つけ方の会 |
| 12 | 友愛セール<br>おもてなし料理講習会 | ふみ台を仮設住宅にはこぶ | おもてなし料理当番<br>家計簿つけ方の会 |
| 1 | | 御影中仮設ふれ合いセンター<br>友愛セールと茶話会 | お鍋の持数くらべ<br>子どもグループ会<br>（野外で“やきいも”） |
| 2 | | 六甲アイランド<br>第4仮設向セール | 子どもグループ会（おひなさま） |

**－ 御影方面リーダー　宇野節子 －**

大震災により岡出さんを亡くし、会員の一人一人も物質的、精神的に被害を受け、なかなか元気が出せない方面です。働ける人だけでもと、3月から仮設住宅向セールを開いてきました。はじめは救援物資に送っていただいた食器だけでしたが、中古衣料、日用品、手作りの食料品と種類も増えています。高年の方が多いので、どういうお総菜、ケーキ類を買っていただけたかチェックをし、次のセールの品揃の参考にします。会話も楽しいものがあり、こういう時若い会員のエネルギーを強く感じます。同じ地域に生活する者として、私達の出来る範囲で細く長く続けていかなくてはならない活動だと思っています。

～ 灘方面 ～

| 月 | 友の会行事 | 救援活動 | 方面行事 |
|---|---|---|---|
| 4 | | | |
| 5 | 例会食事当番<br>全国大会 | 篠原仮設にて青空クッキング | うちわ張り<br>毛布洗い実習 |
| 6 | 例会（当番）<br>友愛セール<br>町田貞子氏講演会 | 港島仮設訪問 | 部会食用パンを見合う |
| 7 | 木工の会 | 篠原仮設うちわ張りと食事会 | 部会食グラハムパンの実習<br>箱はり（最寄講習） |
| 8 | 夏の工芸講習会<br>音楽会 | 仮設お掃除手伝い<br>篠原仮設セールと食事会<br>一王山仮設訪問 | 箱はり（最寄講習）<br>キュロットを縫う会 |
| 9 | | | 部会食勉強会（実習） |
| 10 | 近畿部会 | 篠原仮設食事会<br>灘南仮設友愛セール<br>王子仮設友愛セール | |
| 11 | 家事家計講習会 | | 家計簿つけ方の会 |
| 12 | 友愛セール<br>おもてなし料理講習会 | 港島仮設友愛セール<br>灘南、篠原仮設に踏み台配る | 友愛セール実務当番 |
| 1 | 例会託児当番 | | 乳幼児グループの集まり |
| 2 | | | 福島先生のお菓子の伝達講習会 |

**－ 灘方面リーダー　北村和代 －**

あの忌まわしい震災から早や１年余りが過ぎましたが、まさか私達自身が救援活動をする事になろうとは夢にも思っていませんでした。灘方面においても全焼全壊等それぞれ被災しましたが被害の少なかった者達で、活動をする事になり、篠原、灘南、王子、ポートアイランドの４ヶ所の仮設でそれぞれの近くの最寄のリーダーさん達を中心として食器セールやお食事会、うちわ貼り等の救援活動をして来ました。特に篠原仮設では最寄のリーダーさんが最寄の勉強を生かして食事会が出来、仮設の方達に喜んで頂きました。今後もお食事等を続けて少しでもお役にたてたら、と思います。

～ 神有方面 ～

| 月 | 友の会行事 | 救援活動 | 方面行事 |
|---|---|---|---|
| 4 | | お仕事会（2回）<br>ざぶとん、はたき、針山、つくり<br>仮設セール（鹿の子台） | |
| 5 | 例会（当番）<br>全国大会 | お仕事会（2回）<br>台ふき、針山作り、うちわはり<br>仮設セール（筑紫が丘） | 方面講習（食） |
| 6 | 友愛セール<br>町田貞子氏講演会 | お仕事会　箱帖り | 方面セール<br>町田貞子氏講演会当番 |
| 7 | 木工の会 | お仕事会　箱帖り<br>仮設セール（有野台） | 夾纈染講習<br>子どものパジャマを縫う会 |
| 8 | 夏の工芸講習会<br>音楽会 | お仕事会（ぬいぐるみ） | 子どもパジャマを縫う会<br>子どもの集まり（紙すき）<br>部会食勉強会（パン） |
| 9 | | 仮設セール（北町） | クッキー勉強会 |
| 10 | 近畿部会 | 仮設食事会（筑紫が丘）<br>お仕事会<br>あみもの（チョッキ） | |
| 11 | 家事家計講習会 | 仮設セール（三田）<br>お仕事会<br>あみもの（チョッキ） | つけ方の会(1) |
| 12 | 友愛セール<br>例会託児当番<br>おもてなし料理 | 仮設お茶の会（五社）<br>踏み台、こたつぶとん届ける | 方面セール<br>家計簿つけ方の会(2) |
| 1 | | 長靴届ける | スモックを縫う会 |
| 2 | | 仮設お食事会、あみものの会 | スモックを縫う会<br>もより講習会（ベーコン作り）<br>家計簿のつけ方の会 |

**－ 神有方面リーダー　　― 柳　万智子 －**

一学期の仮設セールにはじまって、二学期からは最寄単位で仮設訪問をしましょうと方面で話しあい、お茶会やお食事会などをしてふれあいを大切にしてきました。私達が月に1、2度使わせてもらっている有野公民館のすぐ隣に五社仮設（150戸）ができ、近くに住んでいる会員がこまめに訪問して下さり、長靴、コタツ布団などをお届けし、又会員と一緒に編み物の会などもしました。何度かお訪ねしていると、顔なじみの方でもでき救援する人される人という壁も取り払われたような気がします。経験がなく暗中模索する事ばかりですが、息の長い活動ができたらと願っています。

～ 鈴蘭台方面 ～

| 月 | 友の会行事 | 救援活動 | 方面行事 |
|---|---|---|---|
| 4 | 例会（当番） | 愛真ホーム協力炊事<br>愛真ホーム訪問<br>箱はり、座ぶとん作り | |
| 5 | 全国大会 | 箱づくり（2回）<br>座ぶとん作り（2回）<br>鈴蘭公園仮設セール | 子ども部の集り<br>家計の集り |
| 6 | 友愛セール<br>町田貞子氏講演会 | 座ぶとん作り<br>鈴蘭公園仮設セール | もより講習会 |
| 7 | 木工の会 | 月が丘仮設セール | 家計の集り<br>子どものための講習会<br>（夾纈染のうちわ作り） |
| 8 | 夏の工芸講習会<br>音楽会 | 愛真ホーム草刈り応援 | |
| 9 | 例会食事当番 | 星和台南仮設セール | |
| 10 | 近畿部会 | 星和台南仮設セール<br>愛真ホーム訪問 | |
| 11 | 例会託児当番<br>家事家計講習会 | | |
| 12 | 友愛セール<br>おもてなし料理講習会 | 星和台南仮設自治会発足会参加 | ゆび人形講習会（2回）<br>家計簿つけ方の会 |
| 1 | | | 非常持出袋制作 |
| 2 | | 星和台南仮設ふれあいセンター<br>開所式参加<br>交流会参加 | |

**－ 鈴蘭台方面リーダー　　吉田喜代 －**

鈴蘭台方面での主な救援活動は愛真ホームへの協力炊事、仮設住宅での救援セール、ふれあいセンター開所に係わる事等でした。いずれも係や近くの最寄を中心に地域の人や家族の協力のもとに行われました。セールでは食器類、衣類に加え、皆で手作りした座布団、箱、お惣菜が大変喜ばれました。会う度毎に仮設住宅の入居者の人達が元気になっていく様子が分かります。救援活動が相互理解を深めています。被災の大小はあっても同じときを生きる者同志、理解し合い助け合いながら生きることの大切さを思わされた貴重な一年でした。

～ 長田方面 ～

| 月 | 友の会行事 | 救援活動 | 方面行事 |
|---|---|---|---|
| 4 | | 西代仮設セール | |
| 5 | 全国大会 | 御蔵作業所開所祝にお見舞いとおやつを届ける | 箱はり<br>乳幼児のあつまり |
| 6 | 友愛セール<br>町田貞子氏講演会 | 御蔵作業所へクッキー届ける | |
| 7 | 例会食事当番<br>木工の会 | 西代仮設食器セール | ブラウスを縫う会 |
| 8 | 夏の工芸講習会<br>音楽会 | 指人形づくり（宮川小学校） | 箱はり<br>夏休み子どもの集まり<br>ブラウスを縫う会 |
| 9 | | 西代仮設セール<br>西代仮設訪問<br>座布団セール | |
| 10 | 例会託児当番<br>近畿部会 | | |
| 11 | 家事家計講習会 | | 子ども部指人形づくり |
| 12 | 友愛セール<br>おもてなし料理講習会 | | 家計簿つけ方の会 (2) |
| 1 | | | |
| 2 | | | |

**－ 長田方面リーダー　　片 山 幸 子 －**

「震災で日本中にその名を知られた長田でした。会員も全壊、半壊、全焼、転居と大変でした。誰の心にも「何かしなくては」という思いがありましたが、全国から送っていただいた食器、防災頭布、足ふきマット等を仮設住宅友愛セールで買っていただいたり、座布団をお届けするのが精いっぱいの働きでした。仮設住宅へ救援物資をもってゆく人手、車がたりませんでした。救援活動が物からケアへ移っている現在、少人数の長田方面に何ができるのか、ささやかでもこんなふうにしたらできる、こんなことならできるとよくよく考えていきたいと思います。

～ 須磨方面 ～

| 月 | 友の会行事 | 救援活動 | 方面行事 |
|---|---|---|---|
| 4 | | 箱はり<br>下畑自立の家訪問 | 愛生園シーツ交換、喫茶<br>しゅうまい勉強会 |
| 5 | 全国大会 | 名谷公園仮設セール<br>箱はり、わんぱく祭 | 愛生園シーツ交換、喫茶<br>さし芽の会<br>乳幼児グループ |
| 6 | 例会食事当番<br>友愛セール<br>町田貞子氏講演会 | 管の台<br>市の子公園 } セール<br>箱はり、ズボン作り | 愛生園シーツ交換、喫茶<br>乳幼児グループ |
| 7 | 木工の会 | 名谷公園<br>市の子公園 } セール | 愛生園シーツ交換、喫茶<br>乳幼児グループ<br>もより講習（4もより合同） |
| 8 | 夏の工芸講習会<br>音楽会 | 箱はり<br>ズボン作り<br>指人形作り | 愛生園シーツ交換、喫茶<br>夏の工芸講習会当番<br>愛生園の盆踊り参加 |
| 9 | 例会託児当番 | 市の子公園<br>管の台<br>桜木町 } うちわはり<br>セール<br>箱はり | 愛生園シーツ交換、喫茶<br>乳幼児グループ<br>もより講習（3もより）（食講習会）<br>愛生園カーニバル参加 |
| 10 | 近畿部会 | 桜木町セール | 愛生園シーツ交換、喫茶<br>乳幼児グループ<br>お弁当講習会 |
| 11 | 家事家計講習会 | | 愛生園シーツ交換、喫茶<br>家計簿つけ方の会 |
| 12 | 友愛セール<br>おもてなし料理講習会 | 菅の台仮設セール（なべ）<br>下畑自立の家　クリスマス会 | 愛生園シーツ交換、喫茶<br>家計簿つけ方の会 |
| 1 | | | 愛生園シーツ交換、喫茶<br>乳幼児グループ（牛乳パック人形）<br>「子どもの生活リズム」講習会<br>（生活用説明会） |
| 2 | 例会（当番） | 桜木町仮設セール<br>ふれあいセンター開所式<br>菅の台仮設セール　ぜんざいの会 | 愛生園シーツ交換、喫茶 |

**－ 須磨方面リーダー　　畠 中 須 美 －**

この一年方面リーダーをさせていただいてありがとうございました。被災された皆様、私達の小さな活動を受け入れて下さってありがとうございました。がらんとした公園で初めて食器セールをした時、お客様は来て下さるかととても心配でした。はじめて仮設住宅をお訪ねした時はおこられやしないかとひやひやでした。自分達の日程を優先させた訪問になってしまいましたが久し振りに伺ってもいつも喜んで迎えて下さって私達は励まされるだけでした。やさしい心をいただきました。

ただ、私達ができたのは友愛セールやお茶の会だけで、そこに来られない方々には心も手も届けられていません。限界も知りました。

～ 垂水方面 ～

| 月 | 友の会行事 | 救援活動 | 方面行事 |
|---|---|---|---|
| 4 | | 食器セール<br>箱はり（2回）<br>ふとん作り<br>美山台仮設訪問 | はたき、鍋つかみ作り |
| 5 | 全国大会 | 美山台仮設訪問（2回） | |
| 6 | 友愛セール<br>町田貞子氏講演会 | 旭が丘仮設訪問（2回）<br>美山台仮設訪問 | 高丸幼稚園講習会<br>夾纈染 |
| 7 | 木工の会<br>例会託児当番 | 美山台仮設訪問（2回）<br>美山台仮設うちわ作り | 料理講習（最寄講習）<br>手作りおやつ、ケーキ講習<br>垂水東中学校講習会（うちわ夾纈染）<br>木工の会実務当番 |
| 8 | 夏の工芸講習会<br>音楽会 | 美山台仮設訪問（2回）<br>お仕事会<br>平磯仮設訪問 | 木の指人形<br>パン講習会<br>うちわ張り講習（最寄講習） |
| 9 | | 美山台仮設訪問（2回）<br>美山台仮設セール<br>平磯仮設訪問 | |
| 10 | 例会食事当番<br>近畿部会 | | |
| 11 | 家事家計講習会 | 平磯仮設セール | |
| 12 | 友愛セール<br>おもてなし料理講習会 | 美山台仮設訪問 | |
| 1 | 例会（当番） | 美山台仮設昼食会 | ボロ山くずし |
| 2 | | | お菓子伝達講習会 |

**－ 垂水方面リーダー　相馬邦子 －**

食器セールに始まって仮設訪問、うちわはり講習会、お食事会、お茶会と救援活動を続けてきました。仮設の方達が帰り際に必ず「また来てね」と待っていて下さることが励みになり私達が元気をいただいて帰って来る状態です。

大震災では命がけの体験をされ身も心も傷つき、まだまだ癒されていないと思います。私達は「して上げる」のではなく「させていただく」気持ちを忘れないように、又不注意な言葉使いで不愉快は思いをさせないように呉々も心して続けてゆきたいと思います。

救援活動を通して物資を送り続けて下っている全国友の会の方達の御厚情に感謝します。

～ 舞子方面 ～

| 月 | 友の会行事 | 救援活動 | 方面行事 |
|---|---|---|---|
| 4 | | 食器セール | 家計勉強会<br>座ぶとん作りの会(2) |
| 5 | 全国大会 | 仮設訪問（座ぶとんもって） | 座ぶとん作りの会 |
| 6 | 友愛セール<br>例会託児<br>町田貞子氏講演会 | 仮設訪問の為の準備会<br>仮設お茶の会 | 家計勉強会<br>乳幼児グループ会<br>手仕事の集まり |
| 7 | 木工の会 | 仮設青空セール（2回）<br>お茶の会 | もより講習(3) |
| 8 | 夏の工芸講習会<br>音楽会 | 仮設訪問<br>（おそうじと話し相手）3回 | イージーパンツを縫う |
| 9 | | 仮設訪問<br>（おそうじと話し相手）2回<br>仮設セール(2) | 子ども部おやつ講習会 |
| 10 | 近畿部会 | 仮設訪問<br>（おそうじと話し相手）2回<br>仮設お茶の会(2) | もより講習(1) |
| 11 | 例会食事当番<br>家事家計講習会 | 仮設訪問<br>（おそうじと話し相手）2回<br>仮設青空セールとお茶の会<br>仮設ふれあいまつり参加 | |
| 12 | 例会（当番）<br>友愛セール<br>おもてなし料理講習会 | 仮設訪問<br>（おそうじと話し相手）2回<br>仮設クリスマス会、石狩鍋の会 | 家計簿のつけ方の会<br>もより講習(2)<br>クリスマス例会のしおり作り |
| 1 | | 仮設お茶の会とセール | 家計勉強会<br>震災展の為の衣の勉強会<br>フードつきコートを縫う |
| 2 | | 仮設お茶の会とセール<br>学園東町の仮設に座ぶとんを届ける | もより講習(1) |

**― 舞子方面リーダー　　籠 田 洋 子 ―**

「目の前のことを懸命にして行こう」と4月、私達は仮設住宅に入居される方の為に座布団作りに入りました。訪れる側も受けとる側も戸惑いのある出合いから私達の仮設との関わりが始まりました。若い人の準備で「青空セール、お茶の会」が回を重ね、笑顔が少しずつ広がって行くのは感動でしたし、待っていて下さることは嬉しいことでした。私達一人一人のさし出す力は小さくても集められ大きな働きになったと思います。夢中で過ごして来ましたが、多くの人に支えられ祈りの中に守られ健康で貴重なこの年度を終えることができ感謝です。私はあの1月17日の大きな揺れと共にこの一年の多くの頂きものを決して忘れることはないでしょう。

～ 西神方面 ～

| 月 | 友の会行事 | 救援活動 | 方面行事 |
|---|---|---|---|
| 4 | | 仮設セール（椛台、狩場台、春日台、西神南）<br>はたき、針山作り | |
| 5 | 全国大会<br>例会託児当番 | 仮設セール（椛台、狩場台、春日台、西神南） | |
| 6 | 友愛セール<br>町田貞子氏講演会 | 仮設セール（椛台、狩場台、春日台、西神南）<br>箱はり、勉強会 | |
| 7 | 木工の会 | 仮設集会所お茶の会 | 友愛セール<br>最寄リーダー会 |
| 8 | 夏の工芸講習会<br>音楽会 | 仮設セール（狩場台、春日台、西神南）<br>指人形講習会 | |
| 9 | | 仮設セール（椛台、春日台） | 洗濯講習会<br>乳幼児の集まり |
| 10 | 近畿部会 | 仮設セール（西神南、狩場台） | |
| 11 | 家事家計講習会<br>例会（当番） | 仮設お食事会（集会所）<br>〃セール（椛台、狩場台） | |
| 12 | 友愛セール<br>おもてなし料理講習会 | 仮設セール（春日台）<br>クッキー配り（狩場台）<br>踏み台（西神南、狩場台） | 家計簿つけかたの会<br>友愛セール |
| 1 | | 仮設セール（椛台） | |
| 2 | 例会食事当番 | 仮設お食事会<br>（ふれあいセンター<br>春日台　狩場台） | 洗濯講習会（セーター） |

**― 西神方面リーダー　沼田静子 ―**

4ヶ所の仮設住宅を順番に訪問する事になり、最初どのように行動すれば良いのか、傷つける言葉を言わないか色々と迷う事が頭の中をよぎりました。しかし訪問すると「食器は何もなくなり助かるわ」「さっき買って帰ったお寿しおいしかったわ。もう一つない？」とか帰りに「又きてね」とか言われた言葉が耳の奥にいつも残って、色々な思いはなく人と人のふれ合いがありました。又北海道の団体から送っていただいた石狩鍋の材料で昼食会をもち、ゆっくりと話し合い、一人一人の心の痛みを聞き会話する事で少しでも痛手が少なくなればという思いがありましたが、今思うと人の為に何かしていると思っていた事が、自分の今の生活を見直す機会となり感謝しています。一日も早く皆さんの落ちつく場所が見つかりますよう心からお祈りしております。

～ 明石方面 ～

| 月 | 友の会行事 | 救援活動 | 方面行事 |
|---|---|---|---|
| 4 | 例会託児当番 | 朝霧仮設訪問<br>座ぶとん、防災頭巾づくり | 第二友の家解体 |
| 5 | 全国大会 | 朝霧仮設訪問<br>曙仮設訪問 | 明石女性団体協議会参加 |
| 6 | 友愛セール<br>町田貞子氏講演会 | 曙仮設訪問<br>朝霧仮設訪問 | |
| 7 | 木工の会 | 朝霧仮設茶話会<br>中崎仮設訪問 | |
| 8 | 夏の工芸講習会<br>音楽会 | 会員宅訪問 | 夏休み折り紙講習会 |
| 9 | | | |
| 10 | 例会（当番）<br>近畿部会 | | 乳幼児グループ会 |
| 11 | 家事家計講習会 | | 魚住市民まつり参加<br>明石女性フェアー参加<br>家計簿つけ方の会（2会場） |
| 12 | 友愛セール<br>おもてなし料理講習会<br>例会食事当番 | | 友愛セール<br>乳幼児グループ会<br>きょうけつ染講習会（もより講習）<br>家計簿つけ方の会（2会場） |
| 1 | 西の宮友の会<br>音楽会出演交渉 | | もより講習<br>シーツののりづけ<br>家計簿つけ方の会 |
| 2 | | | もより講習(4) |

**－ 明石方面リーダー　山本佳子 －**

被害が地域の一部だったせいか、行政の対応も緊迫感がなく、個人がボランティアとして登録に行っても待機するだけの状態が続く。友の会も仮設住宅の中で、食器セールをしたいと行政の窓口を訪ねたところ無料の時には黙認してくれたがわずかな金額でも有料となると、スムーズに事が進まず、最後には、規則で許可することが出来ないとことわられる。この非常時に、規則が優先されることに大いに疑問を持ったがセールがだめならと、仮設訪問を始める。何度か訪ねるうちに、親しく出来るようになると、「市でも仮設でのケアをしているのでかってな行動はしないで欲しい」と、不平等が起きることがこまるという考え、今は、個人と個人のつながりで、親しくなった方への訪問を続けている。

## 震災から一年が過ぎて　　－２、３月例会より－

一年が過ぎて「生活の変わったこと、変えられたこと」「心に残ったこと」は何ですか？と紙に書いて持ち寄り、例会で話し合いました。その中でも「地震の体験を何の痛みもなく話せるようになるまで、私の中の震災は終わらないと思う」という人など、一年が経ってかえってあの当時の思い出を生々しく書いている人が多かった。今まで多すぎる物を持って豊かに暮らす事を幸福だと思っていたことに対して、謙虚な反省とおそれと今後どうあったらよいか私たちの目指す方向を教えられたように思った。

○　あの翌日から、大阪の主人の実家にお世話になりました。両親はじめ、兄嫁さんに大変よくしていただき、今までちょっと遠慮がちなつき合いだったが、ウンと打ちとけられた。震災がなければ一生、一緒に暮らす機会もなかったと思う。これは大きな恵みでした。

○　「震災同居をしていますが、いい嫁になろうと思わず一人一人の人格を尊重して、自然に生活できたらそれが一番、一年立って心おだやかに生活している。一人一人が暖かい部屋で、暖かい食事をして、毎日入浴できて暖かいおふとんで寝られることがどんなに幸福なことか感謝しなければならない」

○　「父の死により、命の尊さを一番心に残していた。忘れたい、と思っていた震災の事も友の会の中で支え乍ら話し合うことで父の死を無駄にしてはいけないという気持ちになってきた。生活を見直していくことが、よりよく生きる事だと信じている」

○　「ボランティアをしていた時に言葉を交わした人が「自分が死んでいたら家族に500万の金を残してやれたのに」と生命の助かった事を喜ぶことよりこのような言葉を出さずにいられないつらさを思うと「助かっただけでも良かったですヨ」とは軽々しく口に出来ないと思った。」

○　「非常グッズや非常食などは家族だけを守るために備えるのでなく互いに助け合うために備えると言う意識を持っていなければ、いくら揃えていても宝の持ちぐされという事がわかった」

○　「いつも自立を忘れず、無用の甘えは自分のためにならない」

○　「大自然の大きな力が人間を謙虚に生きることをめざめさせてくれたのではないか」等

# 生活の変ったこと 変えたこと

物に対する執着がなくなった

水の大切さがわかった
水の確保
（風呂・ペットボトル）

適量の生活
シンプルライフを目指したい

非常持ち出し
用意

物の置き場所の工夫

人に対する思いやりができた

友の会員であったことを感謝

懐中電灯を各自（家族）が持つ
各部屋に用意

連絡法を考えておく
電話番号
小銭の用意

# 心に残ったこと

- 人の心のやさしさ あたたかさに感謝

- 人との交わりを 大切にしていきたい

- 親類、知人との関わりや 仮設セールの働きで
  人間関係が深くなった

- 自然の力のおそろしさ 人間の力の微力さを感じた

- 本当に必要なものは何かを考えるようになった

- あたりまえのことを 感謝したい

# 闇をかえて　光となす

アッ！　これなに　???
まさか神戸に地震が……

あの真暗な寒い朝
何もわからない　考えられない
ただ　外へ逃げるだけ

誰かが毛布をかぶせてくれた
知らぬ間に靴もはかせてもらっていた
「水を一口どうぞ」と

有難う　ありがとう
私は　生きていた

全国からヌ　外国からも　手をさしのべられて
食べるもの　着るもの　お風呂も
用意して下さる

日本各地からの 応援で
電気がついて
水が出た

電車が 少し 動きはじめた
有難う　ありがとう

そして　あれから一年
やっと　ここまで来た
元の明るい神戸の町になるには
まだ何年かかるのか……

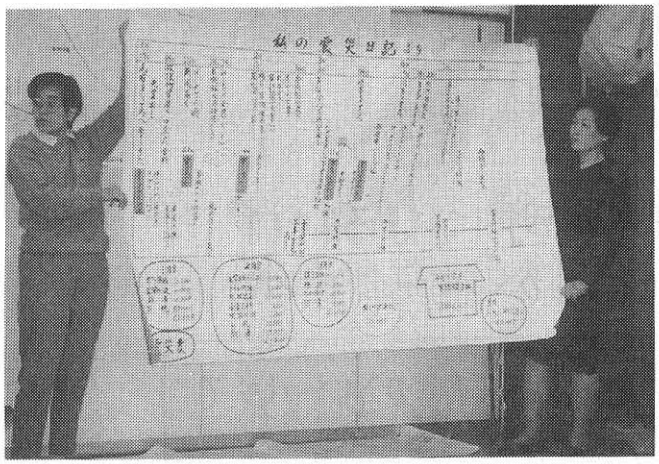
| |
|---|
| 支え合おう　あたたかい 心で<br>話し合おう　誰とでも<br>援け合おう　お互に |

みんなで 先を見上げて
手をつないで 強く生きよう

# 震災展に向って

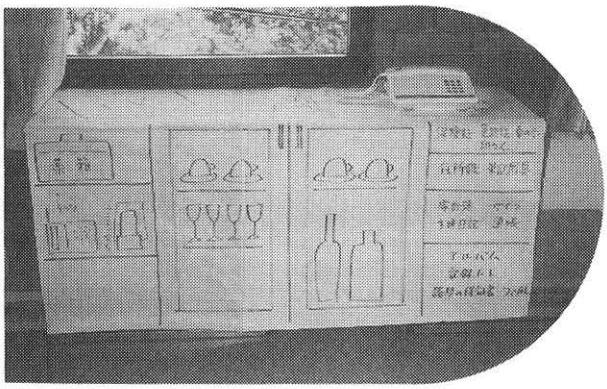
つんだり！
くづしたり！

内容の
話し合い



こう云うのはどうでしょう？

あれこれ資料をあつめて…



大切なものの置き場所は？
食器も持数をシンプルに…

震災展

# 自然の力　人の力

## わたしたちの体験から

あの大震災から一年が経ちました。震災を通してわたしたちは　自然の力の大きさと人の優しさやたくましさも知りました。
この度、震災直後の状況と　多くの協力を得て炊き出しから始まった救援活動や、その後の生活の中から考えたこと、工夫した備えなどをパネルと実物展示とによって表わしてみました。お誘い合わせの上お出かけ下さい。

内　容

- ライフラインが断たれたとき
- 非常時への備え
- 持物の見直しをしました
  - 衣服のこと
  - 台所のこと
  - 子ども部屋
- 地震の話
- 子どものコーナー
- 友愛セール、喫茶
- 神戸友の会幼児生活団
- 神戸友の会生活学園

**と　き**　1996年３月28日(木)・29日(金)・30日(土)
午前10:00～午後4:00

**ところ**　神戸友の家　ＪＲ灘駅、阪急王子公園駅下車徒歩10分
（中央区上筒井通１－６－８）　☎ 078－221－2941

**入場券**　300円(小学生以下無料)

**主　催**　神戸友の会

**協　力**　全国友の会・自由学園・婦人之友社

**後　援**　神戸市・神戸市教育委員会

# 阪神淡路大震災記録誌

**発行日**　平成8年3月28日

**発行所**　神戸友の会



〒651　神戸市中央区上筒井通1丁目6番8号

電　話（078）221－2941

ファックス（078）271－0883